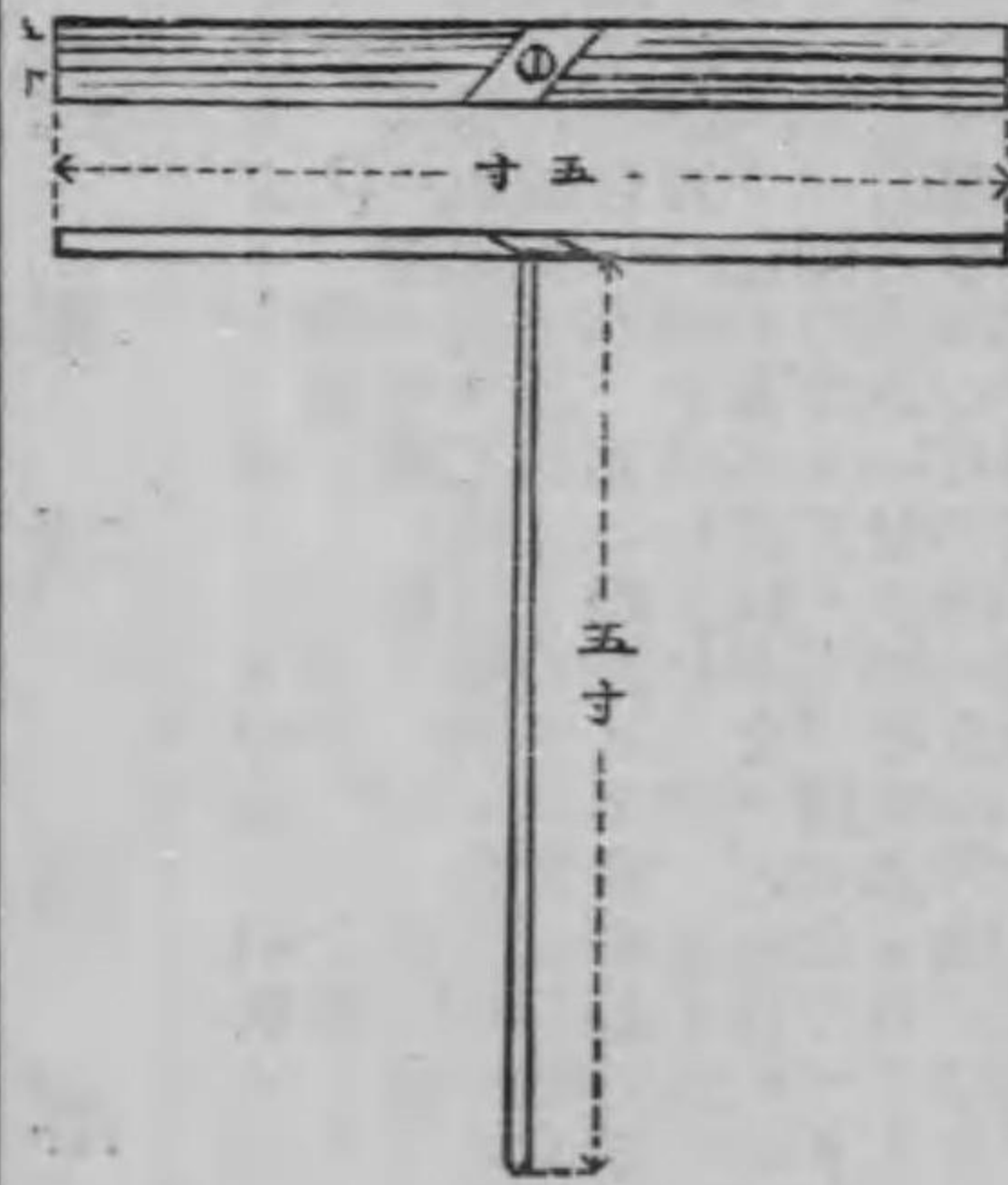


考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物 便 教	具 用	料 材					
	實物標本	廣大工作圖 說明用具材料	竹削臺、小刀、砥石、 尺度、三角定規、手工帳 (又は畫紙)	四時 (第一、二時)	飛行の理由、及び竹蜻蛉の製法を授け、併せて小刀の使用法に習熟せしむ	竹蜻蛉 (模作法)	竹細工	第一週
教 授 事 項 圖 解								
<p>一、觀察、問答                  1、竹蜻蛉の廻旋を示し、之れを上方より見て其理由を問答す                  2、竹蜻蛉の廻旋をよりて空を飛せしめて上方に斜面を押す                  3、旋の力と共に羽を上げて飛せしむ                  4、反對の廻旋をして飛せしむ                  5、竹蜻蛉の全船及軍艦のスケッチ等につきて問答す</p> <p>二、工作圖の描き方                  1、大形の實物圖を以て、其の形狀、構造、寸法等を問                  2、答して實物圖を畫紙に尺及び三角定規を用ひて、正                  3、確に工作圖を描かしむ                  4、先づ平面圖を記入せしむ                  5、寸法を記入せしむ</p> <p>三、柄の太さは下部より漸次細くなるに注意せしむ</p> <p>四、先づ工作圖を正確に描きて、其の形狀を以て、正しく作り方に注意せしむ(次頁参照)</p>								
上 教 の 注 意								
<p>一、教室の隅に飛べしめ、斜行に飛べしめ、味を惹き起せしむべし</p> <p>二、脚は廻旋作用を與ふる柄となし、平均を保つて左右の距離を均等に保つべし</p> <p>三、柄の太さは下部より漸次細くなるに注意せしむ</p> <p>四、先づ工作圖を正確に描きて、其の形狀を以て、正しく作り方に注意せしむ(次頁参照)</p>								



考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	前週に全じ	鼠齒錐(徑一分) 錐の臺 板紙錐	前週の未成品	四時 (第三、四時)	竹蜻蛉の作り方を授けて、竹の削り方を練習し併せて小刀使用に習熟せしむ	竹蜻蛉 (模作法)	竹細工	第一週

三、作り方

1、観察、説明

1、鳥口の標本を示して形状構造、用途を明にし、且つ之れを實地を使用して先端の寸法を明にし、且つ之れが作り方の順序を明にし、且つ之れが材料によりて製作上の要点を示す

2、大形材料よりて製作上の要点を示す

3、大形材料よりて製作上の要点を示す

1、作り方

1、與へたる材料を以て長六寸、巾五分厚さ一分の平棒を二つ割る

2、之れを二つ割る

3、厚さを二つ割る

4、先端を鋭形に削り二本をはぎ合はしむ

5、十分密着の上軸部を各自の意匠によりて形作らしむ

6、紙鏝にて全体を磨き上げしむ

先端に嵌め實地に試用せしむ

上教の授注意

一、小刀は必要ならしむ

二、竹の研ぎは必要ならしむ

三、竹の削り方は、竹の繊維を断つてはならず、繊維に沿つて削らなければならない

四、竹の削り方は、竹の繊維を断つてはならず、繊維に沿つて削らなければならない

五、竹の削り方は、竹の繊維を断つてはならず、繊維に沿つて削らなければならない

六、竹の削り方は、竹の繊維を断つてはならず、繊維に沿つて削らなければならない

七、竹の削り方は、竹の繊維を断つてはならず、繊維に沿つて削らなければならない

八、竹の削り方は、竹の繊維を断つてはならず、繊維に沿つて削らなければならない

考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
説明用工具材料 大形工作圖、鳥口標本	小刀、竹削臺、砥鏝、紙石、ヤットコ、糊板、糊篋、細き麻糸		淡竹又は苦竹の削片(長六寸、巾五分、厚一分)	四時	鳥口を作らしめて竹の削り方及びはぎ合せ方を練習せしむ	鳥口 (模作法)	竹細工	第三、四週

一、観察、説明

1、鳥口の標本を示して形状構造、用途を明にし、且つ之れを實地を使用して先端の寸法を明にし、且つ之れが作り方の順序を明にし、且つ之れが材料によりて製作上の要点を示す

2、大形材料よりて製作上の要点を示す

3、大形材料よりて製作上の要点を示す

1、作り方

1、與へたる材料を以て長六寸、巾五分厚さ一分の平棒を二つ割る

2、之れを二つ割る

3、厚さを二つ割る

4、先端を鋭形に削り二本をはぎ合はしむ

5、十分密着の上軸部を各自の意匠によりて形作らしむ

6、紙鏝にて全体を磨き上げしむ

先端に嵌め實地に試用せしむ

上教の授注意

一、竹材は必要ならしむ

二、竹の研ぎは必要ならしむ

三、竹の削り方は、竹の繊維を断つてはならず、繊維に沿つて削らなければならない

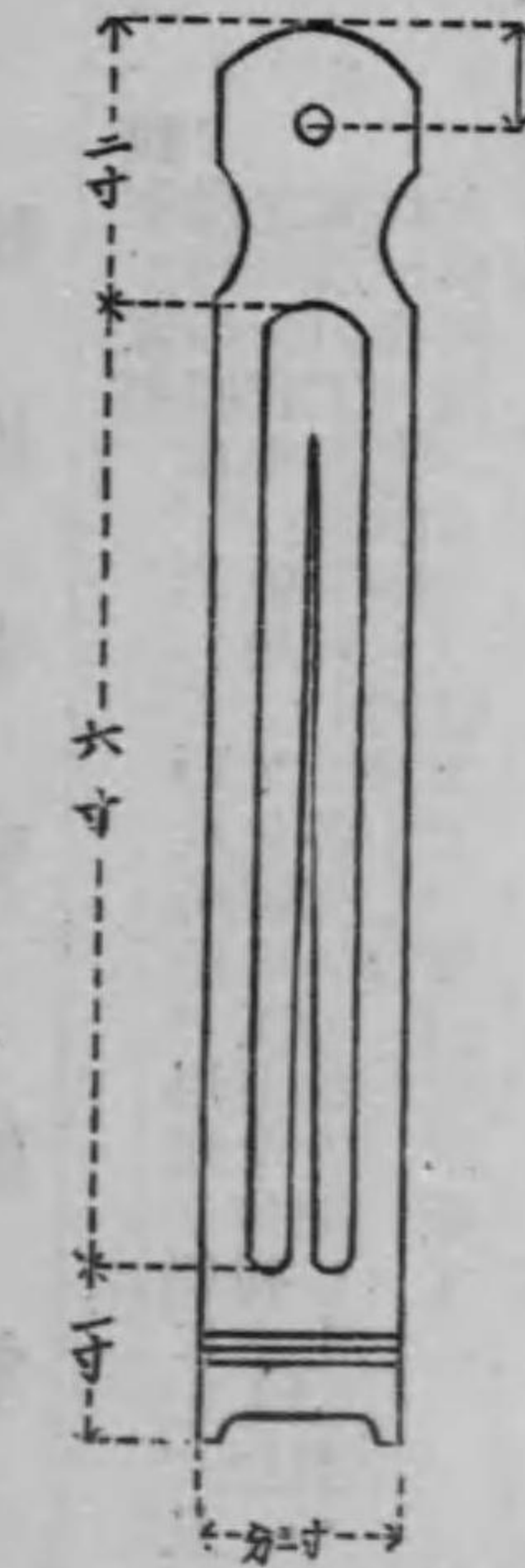
四、竹の削り方は、竹の繊維を断つてはならず、繊維に沿つて削らなければならない

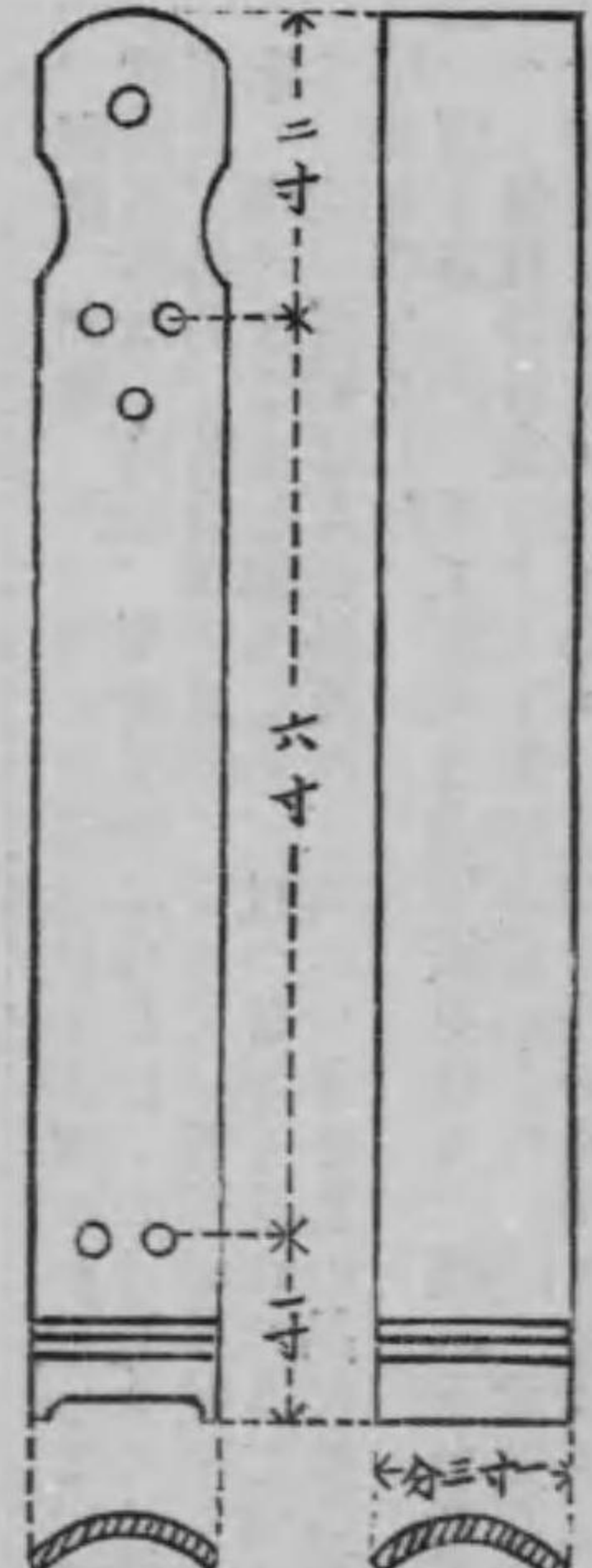
五、竹の削り方は、竹の繊維を断つてはならず、繊維に沿つて削らなければならない

六、竹の削り方は、竹の繊維を断つてはならず、繊維に沿つて削らなければならない

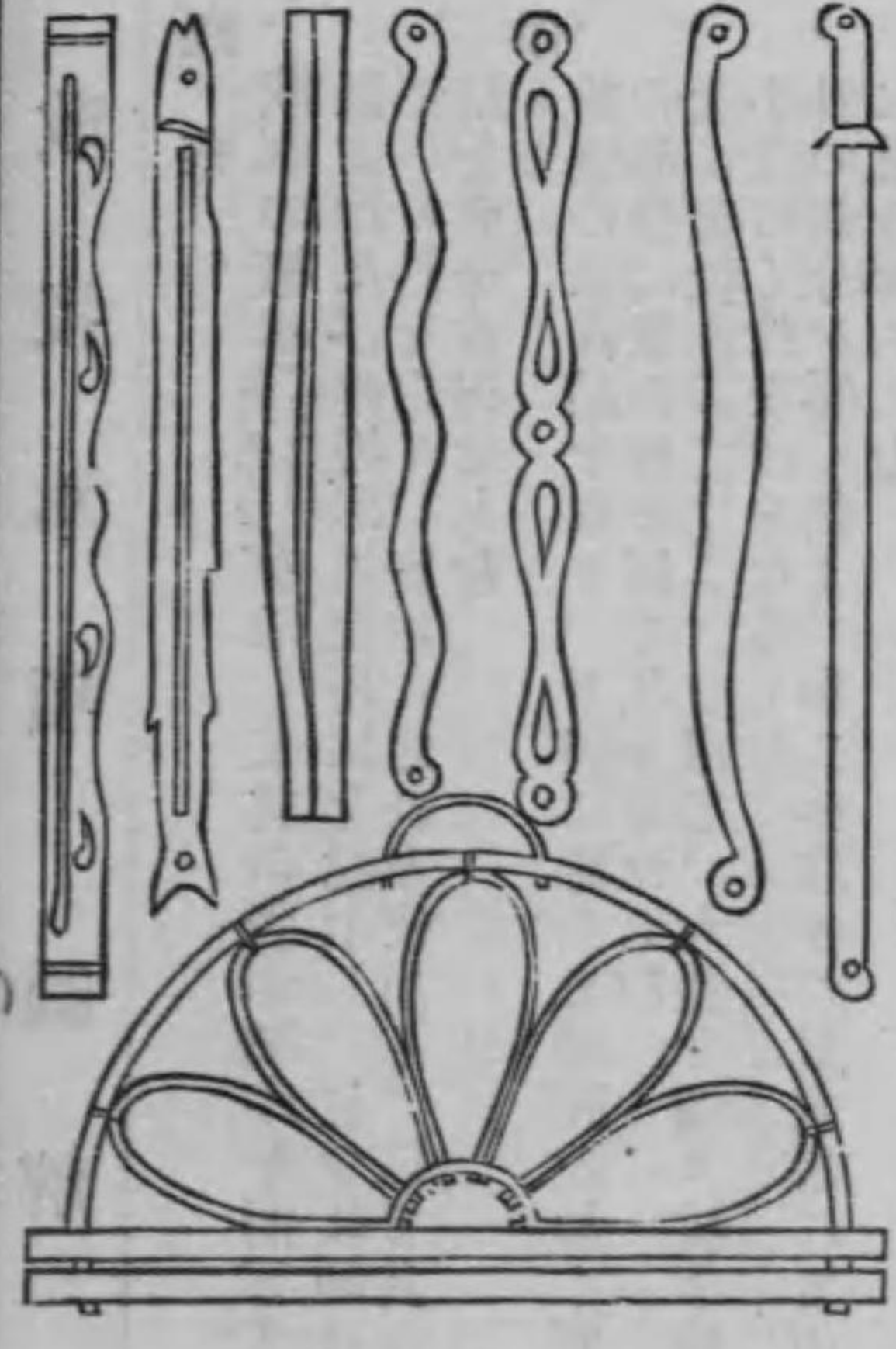
七、竹の削り方は、竹の繊維を断つてはならず、繊維に沿つて削らなければならない

八、竹の削り方は、竹の繊維を断つてはならず、繊維に沿つて削らなければならない

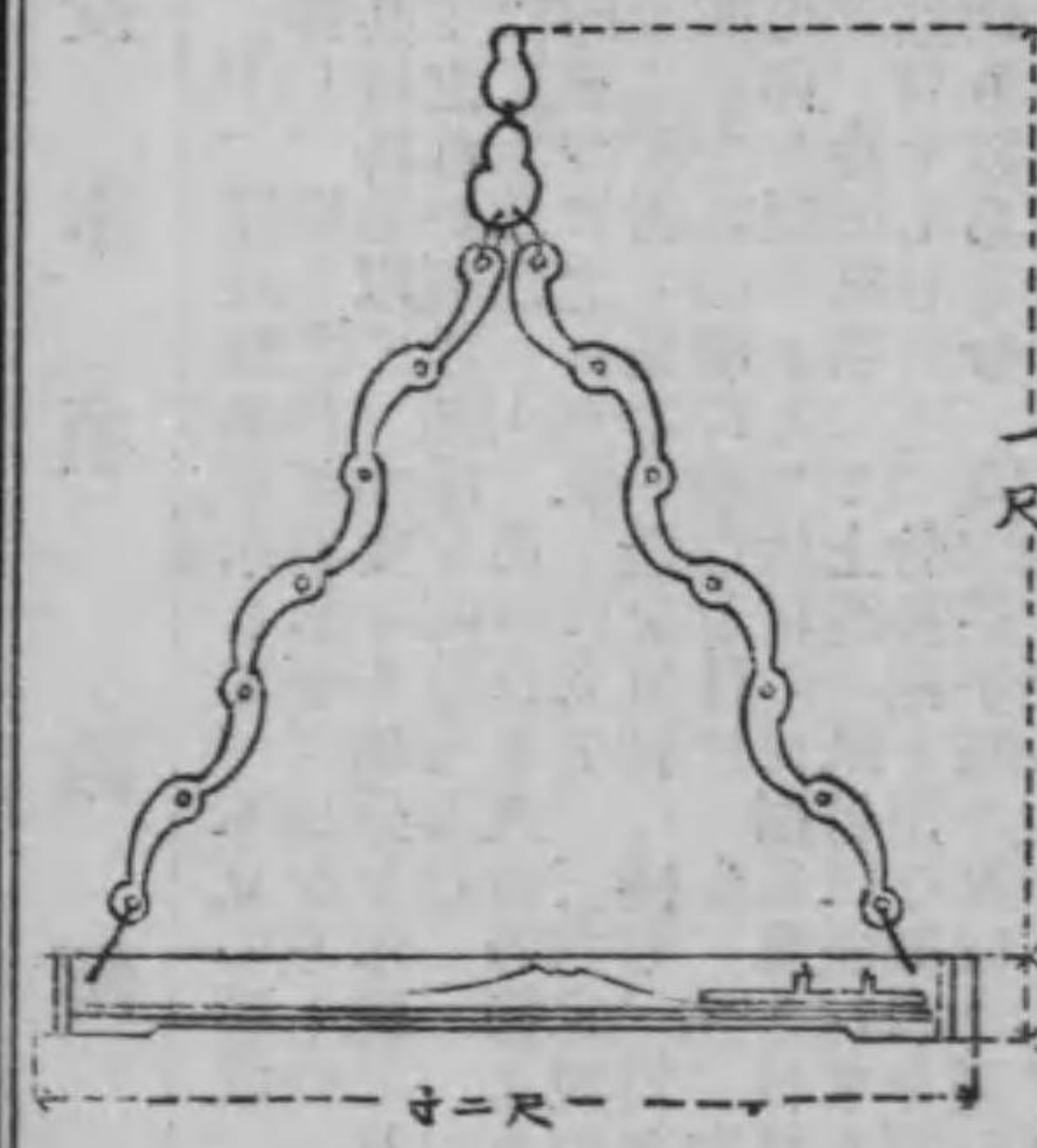
考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	說明用工具材料、大形工 作圖、狀刺の標本(完成品)	小刀、竹削臺、砥石、尺度、磨研 紙(一號)鼠齒錐、剝挽鋸、布片、 硝子又は陶器の器物	前週の未成品、硝酸、ア バラフヒン蠟	六時 (第一、二時)	狀刺を作らしめて、竹の削り方、 削り方、孔の穿ち方、及び硝酸着 色法を授け、併せて小の刀使用法 に習熟せしむ	狀 刺 (模作法)	竹細工	第五週
<p>教授事項 圖解</p>  <p>一、觀察、說明 1、標本を示して、狀刺の形状、構造、用途を明かなら しむ 2、大形工作圖を示して、狀刺の寸法を明ならしめ、且 つ之れが描き方及び作り方順序を知らしむ 二、描き方 1、尺度及び定規を用ひて、手工帳又は畫用紙に工作圖 を描かしむ 2、主要なる寸法を記入せしめて、各部の寸法を明かな らしむ 3、上下の両端及び削りの部分は、各自の意匠によりて 圖に表さしむ 三、作り方 1、與へたる竹材を削りて、巾一寸三分、長さ九寸に定 めしむ 2、次に裏面の肉部を稍平に削らしむ 3、各自の工作圖により竹材の裏面に狀刺の下圖を描か しむ(以下次週)</p> <p>上教の注意 一、工作圖を厳密 につかして、且 注意せしむべ し 二、小刀の研ぎ方 に、砥石は教室内 に適當の設備を なし、必要に際 して交互に研磨 せしむべし 三、竹細工には特 に、又蓋を押さ ざる可からず 四、竹削臺の右端 に竹材を當て、 小刀を軽く使用 せしむべし 五、定めたる寸法 は、厳密に守ら しむべし 六、竹材は徑二寸 許りのものを取 り、一端に筋を 之れを四つ割き し、與ふべし</p>								

考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	說明用工具材料、大形工 作圖、狀刺の標本(完成品)	小刀、竹削臺、砥石、尺度、磨研 紙(一號)鼠齒錐、剝挽鋸、布片、 硝子又は陶器の器物	前週の未成品、硝酸、ア バラフヒン蠟	六時 (第三、四時孔の穿ち方割 り方第五、六時着色仕上)	狀刺を作らしめて、竹の削り方、 削り方、孔の穿ち方、及び硝酸着 色法を授け、併せて小の刀使用法 に習熟せしむ	狀 刺 (模作法)	竹細工	第六、七週
<p>教授事項 圖解</p>  <p>一、觀察 1、狀刺の標本(完成品)を示して其の製作順序を問答す 2、鼠齒錐及び剝挽鋸の使用法を説し、且つ教師は大 形の材料を以て、實地に之れを使用し、以て其の用 法を充分會得せしむ 二、作り方 1、前週の未成品を取り、下圖に従ひて挿圖の如く所要 の部分に鼠齒錐を以て孔を穿たしむ 2、次に剝挽鋸(又は小刀)を以て、大體を切り抜き後削 小刀にて仕上げをなさしむ 3、針の部分に丸く削り、巾二分許りの鼠齒錐にて上部 に孔を穿たしむ 4、次に上下の裝飾を施し表皮を剥ぎ、全體を綺麗に 仕上げ、後磨研紙にて琢磨せしむ 5、硝酸にて着色をなさしむ</p> <p>上教の注意 一、鼠齒錐、剝挽 鋸の構造使用法 を、手入法を知ら しむべし 二、削り方は特に 丁寧に示して、後 に各自にして之れ に倣はしむべし 三、表皮を剥ぐに は、小刀の脊又は 硝子破片を以て 硝子に削り取ら しむべし、削り取 りの刃を垂直にし ての刃を垂直に は、宜しからず 四、硝酸着色法は 仕上時、硝酸中 に、硝子を取り 置ける時、取り 上げて、アンモ ニヤ水を塗り、 乾かす、乾かす 後、水洗ひ、洗 濯し、清水にて 炭酸曹達水にて 乾燥せしめ、後 乾かして、出 し、注意せしむ 五、薬液の取扱 ひには特に注意 せしむべし</p>								

考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	鉛筆、三角定規	小刀、砥石、尺度、圓規	種々の構造を示す手拭掛の参考標本、大形工作圖(二例)説明材料	六時(第一時、二時)	各自の考案によりて、手拭掛の工作圖を描かしめ、意匠の修練、製圖の練習を成さしむ	手拭掛(形状)(創作法)	竹細工	第九、一〇週
教授事項 圖解								
<p>一、観察、問答(1)、種々の構造を示す標本を示して、手拭掛の形状、構造、用途を明らかにしむ(2)、各種の手拭掛の材料、形状、構造、用途を明らかにしむ(3)、主要なる材料及び工具につき其の寸法、種類、品質、用途を明らかにしむ(4)、手拭掛の構造、用途を明らかにしむ(5)、主要なる材料及び工具につき其の寸法、種類、品質、用途を明らかにしむ</p> <p>(1) 丈夫に作ること (2) 使用し易きこと (3) 製作し易きこと (4) 美的に用ふること等 (5) 廢物を</p>								
上教の授注意								
<p>一、各種の材料を併用せしめ、且つ、その材料の性質を注意せしむ(2)、手拭掛の構造、用途を明らかにしむ(3)、主要なる材料及び工具につき其の寸法、種類、品質、用途を明らかにしむ(4)、手拭掛の構造、用途を明らかにしむ(5)、主要なる材料及び工具につき其の寸法、種類、品質、用途を明らかにしむ</p> <p>七、挿入段に於ては、手拭掛の構造、用途を明らかにしむ(2)、手拭掛の構造、用途を明らかにしむ(3)、主要なる材料及び工具につき其の寸法、種類、品質、用途を明らかにしむ(4)、手拭掛の構造、用途を明らかにしむ(5)、主要なる材料及び工具につき其の寸法、種類、品質、用途を明らかにしむ</p>								



考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	参考標本、説明用工具材料	小刀、竹挽鋸、喰切、鼠齒錐、尺度、砥石等	割竹又は丸竹(長一尺二寸位)藤、紐又は針金、工作圖	六時(第三時、四時部分的製作、第五時、六時組立て)	各自の考案によりて、手拭掛を作らしめ、意匠の修練、製作の練習を成さしむ	手拭掛(構造)(創作法)	竹細工	第九、一〇週
教授事項 圖解								
<p>一、観察、説明(1)、前週描きたる工作圖につきて概評をなす(2)、藤の使用方法、竹の削り方及び鏈環の作り方を示範によりて明ならしむ</p> <p>二、作り方</p> <p>1、各自の工作圖によりて、各部分を任意に製作せしむ</p> <p>2、藤は引藤を用ひ、使用前湯又は水中に浸し柔げて後之れを使用せしむ</p> <p>3、鏈を作るには、真鍮又は亜鉛引針金(十七番乃至二十番)をとりて、太さに應ずる丸竹に巻き付け、數個の環を作り、次に喰切にて一つ宛之れを切り放ち、後之れを連ねて鏈を作らしむ</p> <p>4、各部分を磨研紙にて磨き上げ、後之れを組立て、仕上げをなす</p> <p>5、時間の餘裕あるも、色の着せしむ</p>								
上教の授注意								
<p>一、各種の材料を併用せしめ、且つ、その材料の性質を注意せしむ(2)、手拭掛の構造、用途を明らかにしむ(3)、主要なる材料及び工具につき其の寸法、種類、品質、用途を明らかにしむ(4)、手拭掛の構造、用途を明らかにしむ(5)、主要なる材料及び工具につき其の寸法、種類、品質、用途を明らかにしむ</p> <p>七、挿入段に於ては、手拭掛の構造、用途を明らかにしむ(2)、手拭掛の構造、用途を明らかにしむ(3)、主要なる材料及び工具につき其の寸法、種類、品質、用途を明らかにしむ(4)、手拭掛の構造、用途を明らかにしむ(5)、主要なる材料及び工具につき其の寸法、種類、品質、用途を明らかにしむ</p>								



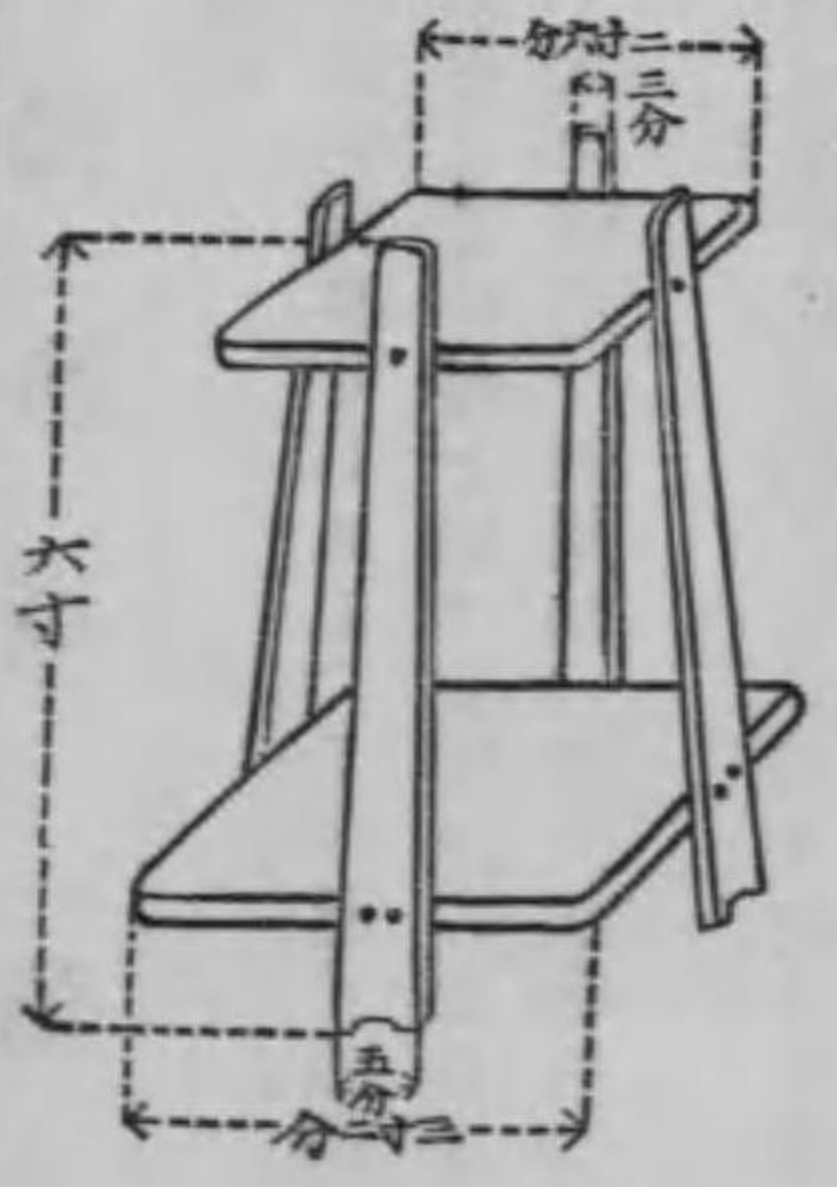


週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教便物	
第一三、一四、一五週	竹細工	創作(自由選題) (創作法)	前諸課の形式を應用して、任意の物品を作らしめ、意匠の修練、製作の練習をなさしむ	六時	苦竹の割片、全丸竹	小刀、竹削臺、尺度、鼠齒錐、竹挽鋸、筆記帳	適當なる參考標本 大形工作圖 上學年兒童の成績品	
教授事項 圖解								
<p>一、觀察、問答</p> <p>1、前諸課に於て授けたる、竹蜻蛉、狀刺、手拭掛等の製作順序を問答す</p> <p>2、適當なる參考標本又は工作圖を示して各自製作すべき任意の一題目を選定せしむ</p> <p>3、上學年兒童の成績品を示して、各自の意匠を誘發せしむ</p> <p>二、作り方</p> <p>1、筆記帳に工作圖を描かして、寸法を記入せしめ、且つ所要材料の見積りをなさしむ</p> <p>2、各自の工作圖に従ひ、工夫によりて任意に加工せしむ</p> <p>3、製品をヤスリ紙にて能く磨き任意の着色をなさしむ (一)柄杓、(二)孫の手、(三)花筒、(四)蠅タ、キ、(五)肉叉子、(六)狀刺、(七)、ナイフ</p>								
上教授の注意								
<p>一、小刀の研磨及其の用法に注意せしむべし</p> <p>二、數日前課題してなるべく各自に考案し置かしむるを可とす</p> <p>三、挿圖は數例を示したるに過ぎざれば成るべく各自に物品を創作せしめ以て意匠の修練をなさしむべし</p> <p>四、製作に先立ちて工作圖を描かしめ形状及寸法を定めしむべし</p> <p>五、時間の都合により着色せしむるも可なり</p>								

週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教便物	
第一週	竹木細工	木札(荷札、傘札)(模作法)	各種の木札を作らしめて木材の加工法を知らしむ	二時	鉋削したる薄板(長さ六寸、巾二寸許)	小鋸、小刀、錐、竹削臺	ヤスリ紙、尺度、定規	説明用工具材料 參考標本(種々の木札)
教授事項 圖解								
<p>一、觀察、説明</p> <p>1、參考標本を示して、木札の種類形状用途を問答して之れが觀念を明確ならしむ</p> <p>2、木細工に必要な工具の名稱、種類、構造、使用法等につきて説明す</p> <p>3、適當なる工具材料にて、木札の作り方順序を示教す</p> <p>二、作り方</p> <p>1、作らんとする木札の形状、寸法を筆記帳に描かしむ</p> <p>2、先づ薄板を所要の寸法より、稍大きく鋸を以て挽切らしむ</p> <p>3、得たる木札の小端及び小口を規定の寸法通り削らしむ</p> <p>4、上部に錐を以て孔を穿ちて紐孔を作り又は一端を細く削りて尖らしむ</p> <p>5、ヤスリ紙にて全體を磨き上げしむ</p> <p>(一)學校園植物名札、(二)門札、(三)傘札、(四)鍵札 (五)植木札、(六)建札、(七)荷札</p>								
上教授の注意								
<p>一、札の種類、形状、寸法は各自の希望により任意に定めしむべし</p> <p>二、木材の種類は任意とし、なるべく菓子折の毀れ等の廢物を利用せしむるを可とす</p> <p>三、便宜小鉋(身幅一寸、臺の長さ六寸)を使用せしむるも可なり</p> <p>四、工具の使用法手入法につきて注意すべし</p> <p>五、机面に疵をつけざる機特に注意を與ふべし</p>								

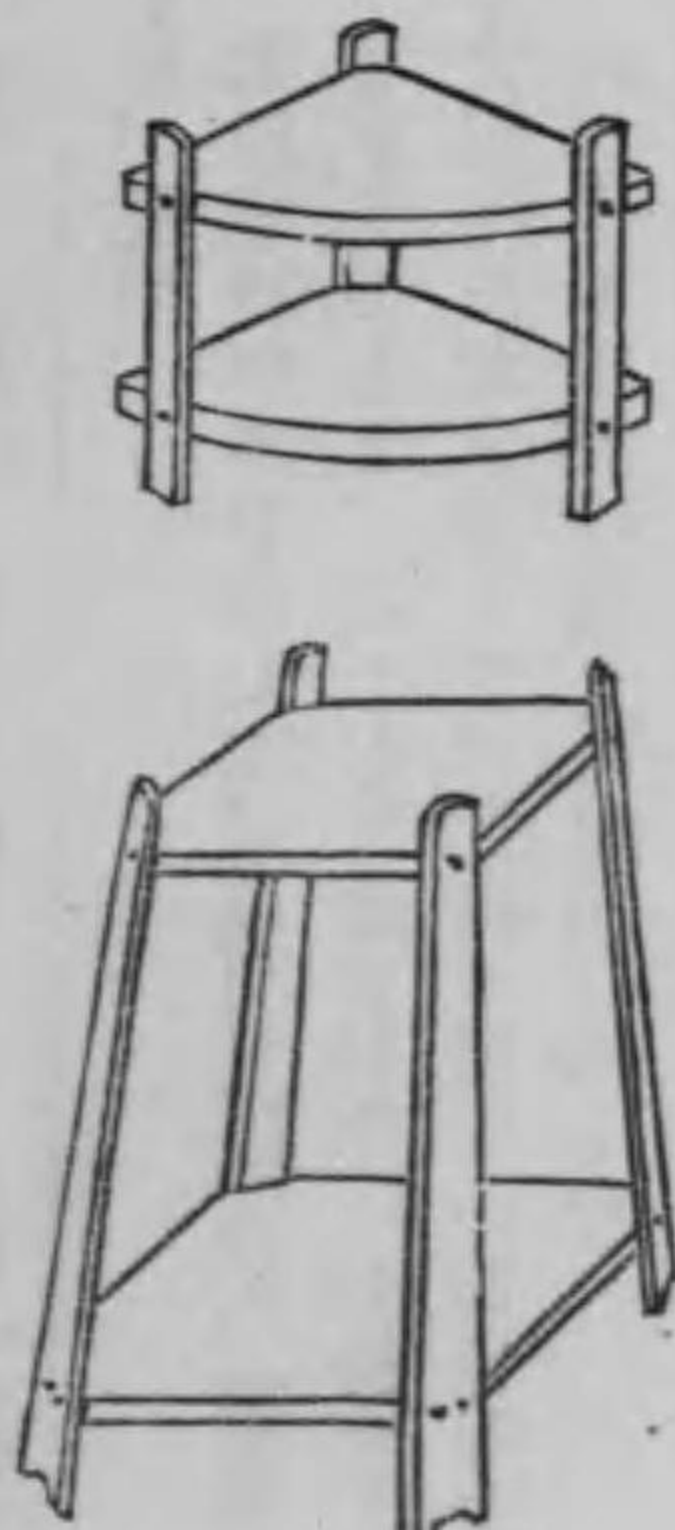
考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	說明用工具材料 大形工作圖、參考標本	小刀、錐、ヤスリ紙、 尺度、三角定規、圓規、 砥石(輕便研臺)	木材 長さ、巾共に二寸六分 (両面飽削しあるもの)	二 時	圖によりて糸巻を作らしめて、曲線形の削り方を練習せしむ	糸巻 (臨圖工作法)	竹木細工	第一週
教 授 事 項 圖 解								
<p>一、觀察、問答</p> <p>1、大形工作圖を示して、糸巻の形状、寸法、用途を問答す</p> <p>2、參考標本を示して、實物と圖との關係を明にし且つ之れが作り方順序を會得せしむ</p> <p>二、作り方</p> <p>1、各自の作らんとする糸巻の正面圖、及び平面圖を描き寸法を記入せしむ</p> <p>2、與へたる木材を工作圖に従ひ、方形又は長方形となさしむ</p> <p>3、尺度及定規を用ひ、用材の上に正しく工作圖を寫さしむ</p> <p>4、下圖に従ひ小刀を以て任意の形状に削り規定の寸法となさしむ</p> <p>5、ヤスリ紙にて充分磨き上げ、且つ面を取らしむ</p>								
上 教 授 の 注 意								
<p>一、用材は成るべく廢物を利用せしむべし</p> <p>二、木材を削る際木理の關係に注意して小刀を使用せしむべし</p> <p>三、便宜任意の裝飾を施さしむ</p> <p>四、小刀の精磨を充分ならしむべし</p> <p>五、餘力あるものには數個を作らしむるも可なり</p>								

考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	大形工作圖 大形實物標本	尺度、三角定規、圓規	畫用紙(九つ切大)一枚	六時 (第一、二時)	置物臺を作らしめて、工作圖の描き方及び竹木片の接合法を知らしむ	置物臺 (模作法)	竹木細工	第三週
教 授 事 項 圖 解								
<p>一、觀察、説明</p> <p>1、大形實物標本を示して、置物臺の形状、構造、寸法、等を問答して、之れが觀念を明確に知得せしむ</p> <p>2、大形工作圖を示して、實物と圖との關係を會得せしめ且つ工作圖の描き方を明ならしむ</p> <p>二、工作圖の描き方</p> <p>1、寸法</p> <p>棚板、方形二段、上板二寸六分平方、下板三寸二分平方、脚、竹製、長さ六寸、巾五分、厚さ一分五厘</p> <p>2、規定の寸法に従ひ、畫用紙に工作圖を正確に描かしむ</p> <p>3、主要なる寸法を記入せしむ</p>								
上 教 授 の 注 意								
<p>一、物品製作に當り設計圖を成るべく正確に描く習慣を養ふべし</p> <p>二、形状及構成は便宜一部分を變更せしむるも可なり</p> <p>三、定規の使用法につき注意すべし</p> <p>四、便宜工作圖に着色をなさしむるも可なり(木材は倍結竹は線にて塗らしむ)</p> <p>五、時間の都合により製作にかゝらしむるも可なり</p>								



週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教便物	
第四、五週	竹木細工	置物臺 (模作法)	置物臺の作り方を授け、竹木等の接合法を知らしむ	六時 (第三、四時、第五、六時)	木片(厚さ二分五厘許の杉又は桂等の薄板) 苦竹の割片、五分の鐵釘	小刀、小鋸、小鐵槌、錐	ヤスリ紙、尺度、定規	説明用工具材料 大形工作圖、相當標本
					<p>一、觀察、說明</p> <p>1、相當標本を觀察せしめて、工作圖との關係を明にし且つ適當なる材料を以て製作上の要点を示範す</p> <p>2、所要工具の構造、使用法、手入法等につきて説明す</p> <p>二、作り方</p> <p>1、規定の寸法に従ひ棚となすべき大小二個の方形板を作り、各板の四隅を切り落さしむ</p> <p>2、工作圖に従ひ脚となすべき竹材四本を削りて平棒となさしむ</p> <p>3、棚に取り附くべき位置に錐を以て各二個宛の釘孔を穿たしむ</p> <p>4、鐵釘を以て接合し仕上げをなさしむ</p>			
					<p>一、釘附法につきては適當なる示範をなし、各自をして之れに倣はしむべし</p> <p>二、竹材には必ず錐にて孔を穿ちたる後釘を打たしむべし</p> <p>三、製品は寸法を正確に仕上げしむべし</p> <p>四、組立て前にヤスリ紙にて各部分を磨かしむべし</p> <p>五、工具の適當なる使用法につき個人指導をなすべし</p>			

教授事項 圖解



教授事項 圖解



- 一、觀察、說明
- 1、各種實物標本を示して、體操人形の形狀、構造、寸法等を説明す
- 2、各種の體操人形を示せる掛圖を示して、種々の構造に作り得べきことを會得せしむ
- 二、工作圖の描き方
- 1、標本又は掛圖を參考し、各自の意匠によりて、工作圖を描かしむ
- 2、寸法を記入し且つ所要材料の見積りをなさしむ

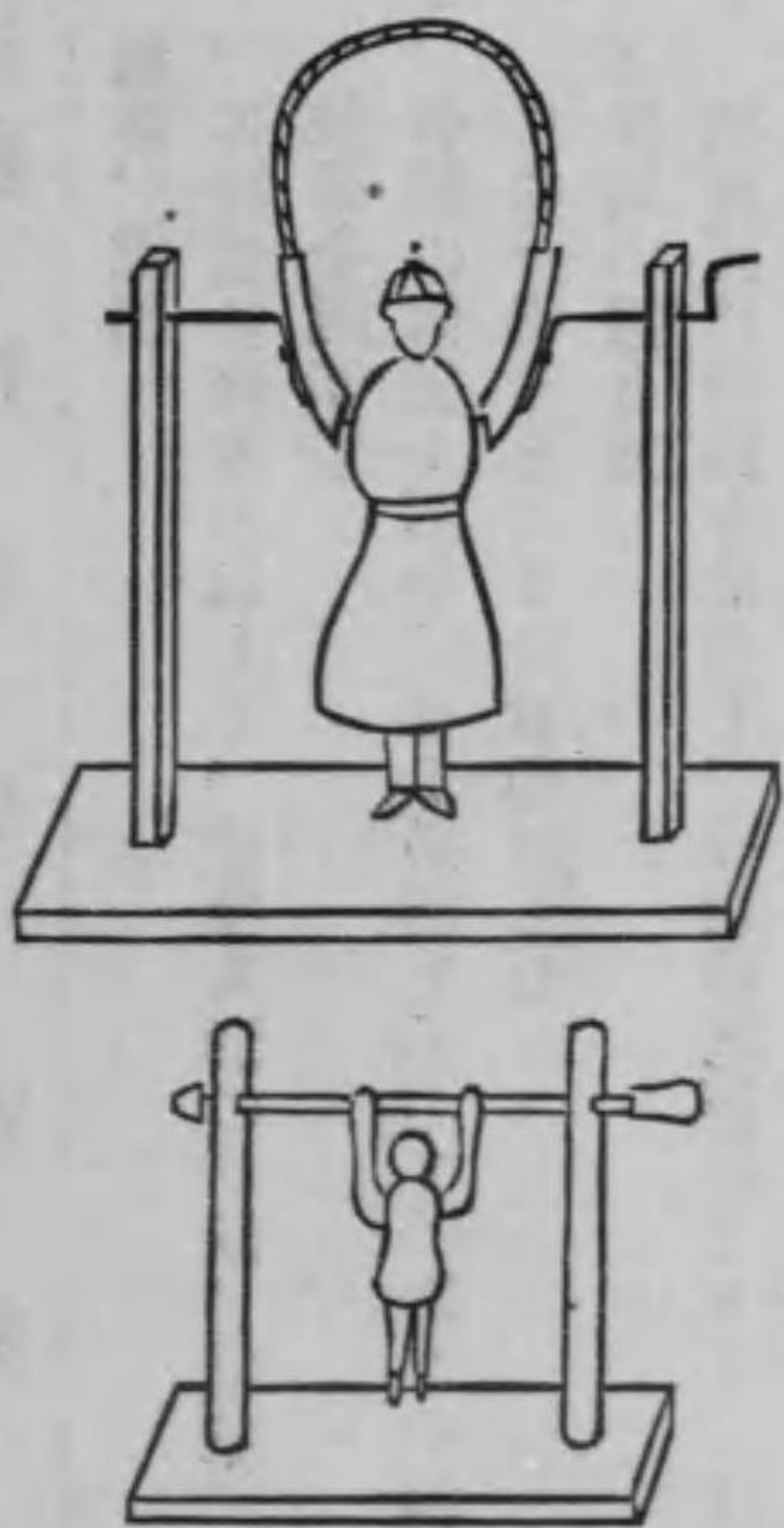
教授の注意

- 一、竹木片の外諸材料の併用は各自の任意となさしむべし
- 二、成るべく兒童各自をして形狀構造の考案に努めしむべし
- 三、諸材料は成るべく廢物を利用せしむべし
- 四、工作圖を描きて時間の餘裕ある時は製作にかゝらしむべし
- 五、成るべく早く豫告して豫め考案せしめ置く可とす

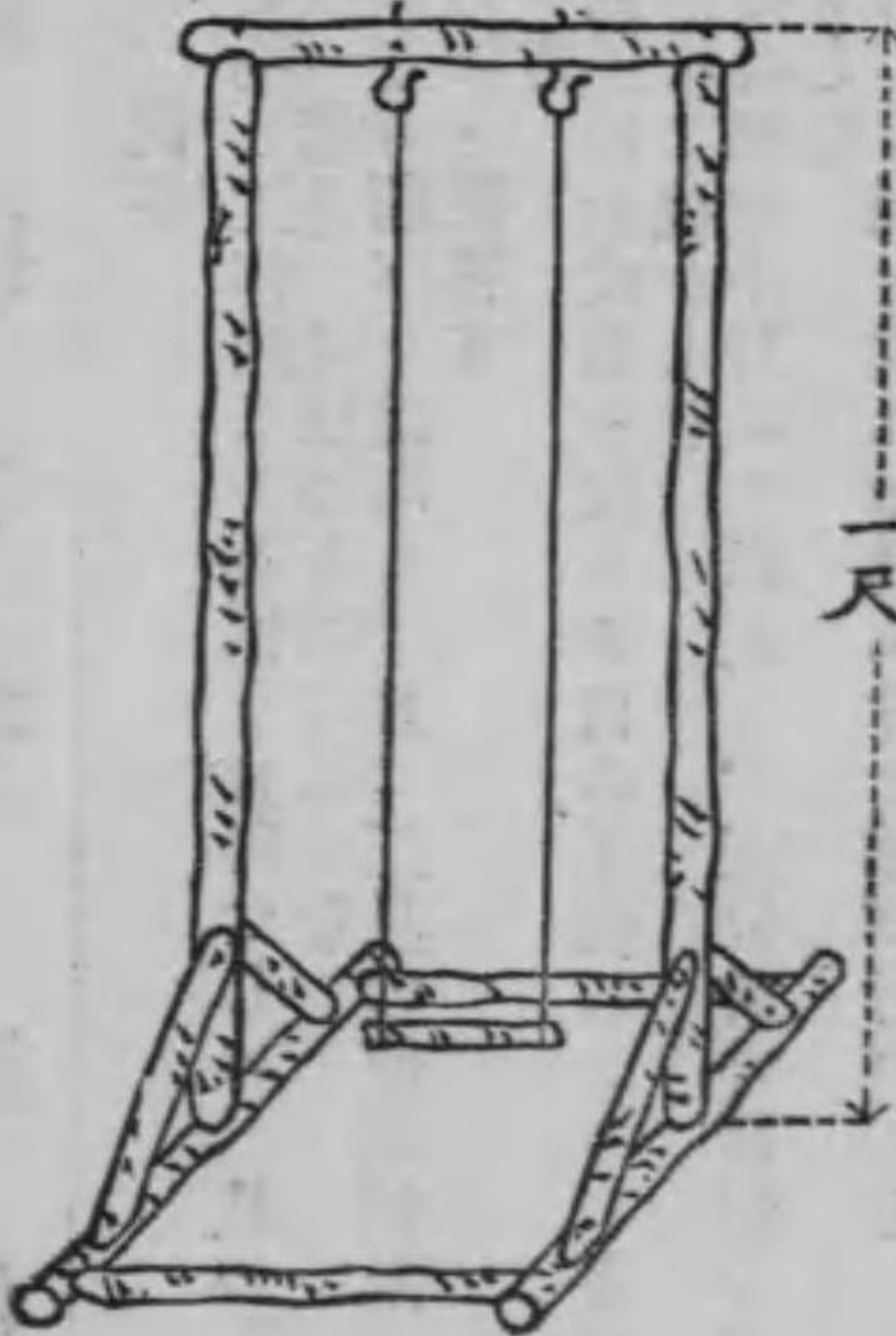
週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教便物	
第六週	竹木細工	體操人形(形狀)(創作法)	各自の意匠によりて、體操人形的工作圖を描かしむ	六時 (第一、二時)	筆記帳又は畫用紙	尺度、三角定規、圓規	參考標本各種 大形工作圖	
					<p>一、觀察、說明</p> <p>1、各種實物標本を示して、體操人形の形狀、構造、寸法等を説明す</p> <p>2、各種の體操人形を示せる掛圖を示して、種々の構造に作り得べきことを會得せしむ</p> <p>二、工作圖の描き方</p> <p>1、標本又は掛圖を參考し、各自の意匠によりて、工作圖を描かしむ</p> <p>2、寸法を記入し且つ所要材料の見積りをなさしむ</p>			
					<p>一、竹木片の外諸材料の併用は各自の任意となさしむべし</p> <p>二、成るべく兒童各自をして形狀構造の考案に努めしむべし</p> <p>三、諸材料は成るべく廢物を利用せしむべし</p> <p>四、工作圖を描きて時間の餘裕ある時は製作にかゝらしむべし</p> <p>五、成るべく早く豫告して豫め考案せしめ置く可とす</p>			



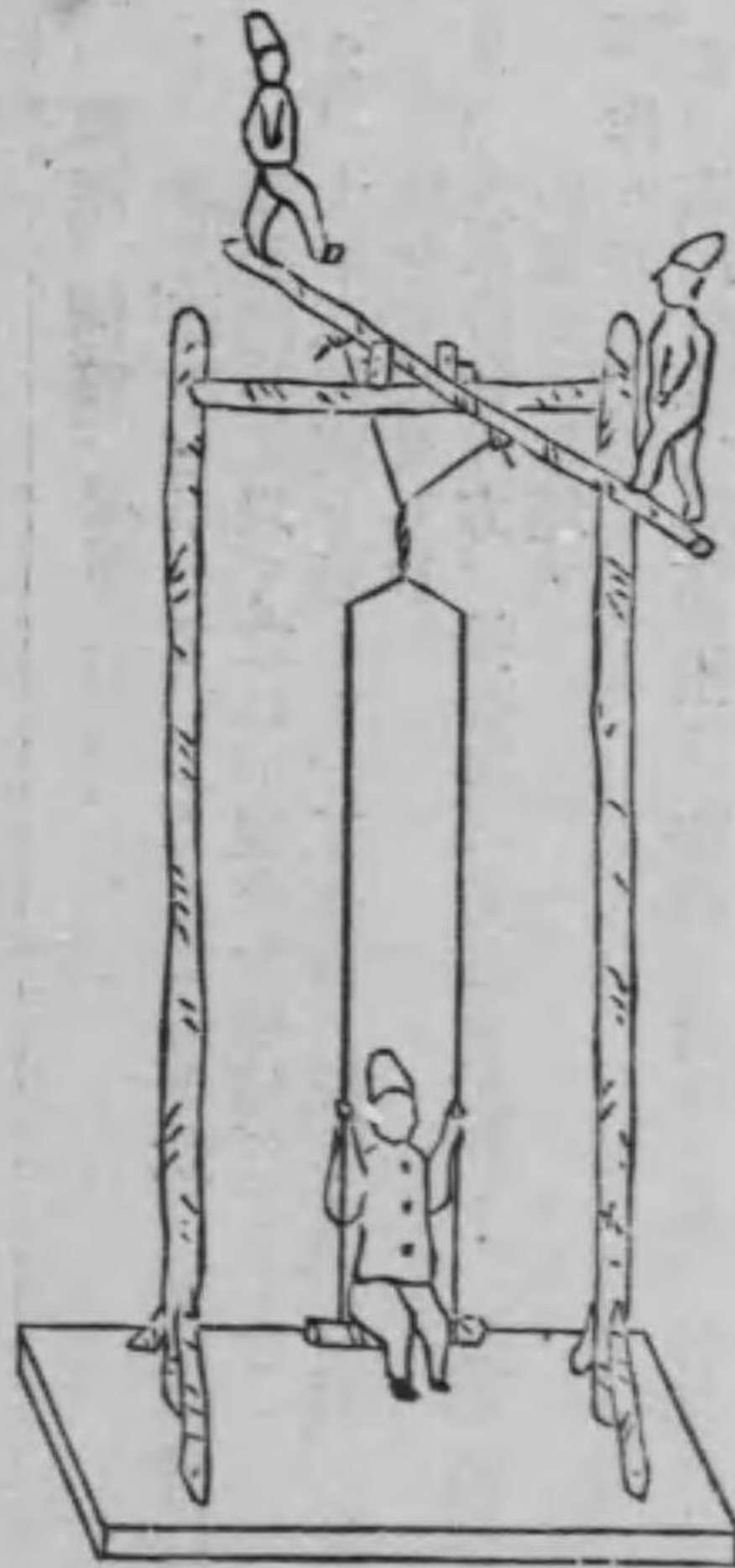
週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教便物	
第七、八週	竹木細工	體操人形(形状)(任意)(創作法)	各自の工夫によりて體操人形を作らしめ、意匠の修練製作の練習をなましむ	六時 (第三、四時、五、六時)	三、四分角方柱狀小割材 十、オンスボール紙、針金 糊、絲、繪具、竹材等	小刀、小鋸、錐、小鐵槌、ヤスリ紙、五分の鐵釘	前學年兒童の成績品 大形工作圖、參考標本	
教授事項 圖解								
<p>一、觀察、問答</p> <p>1、參考標本を活動せしめて、體操人形の製作上の要点を問答す</p> <p>2、木材の接合法、着色等につきて説明又は示範す</p> <p>二、作り方</p> <p>1、ボール紙(又は薄板)を圖の如く裁斷し、且つ之れを接合して人形を作らしむ</p> <p>2、小割材(木又は竹)を以て圖の如き枠を作り、ヤスリ紙を以て各部を磨き上げしむ</p> <p>3、枠に人形を取り付け、各自跳躍を試ましむ</p>								
教授注意								
<p>一、各種材料の用法並に取附方につきて注意すべし</p> <p>二、人形は繪具にて顔面又は衣服を彩色せしむべし</p> <p>三、釘の打方、人形の取附方につきて示範すべし</p> <p>四、枠は刺竹を彎曲して作らしむるも可なり</p> <p>五、形状によりて人形の重心に注意を要すべし</p>								



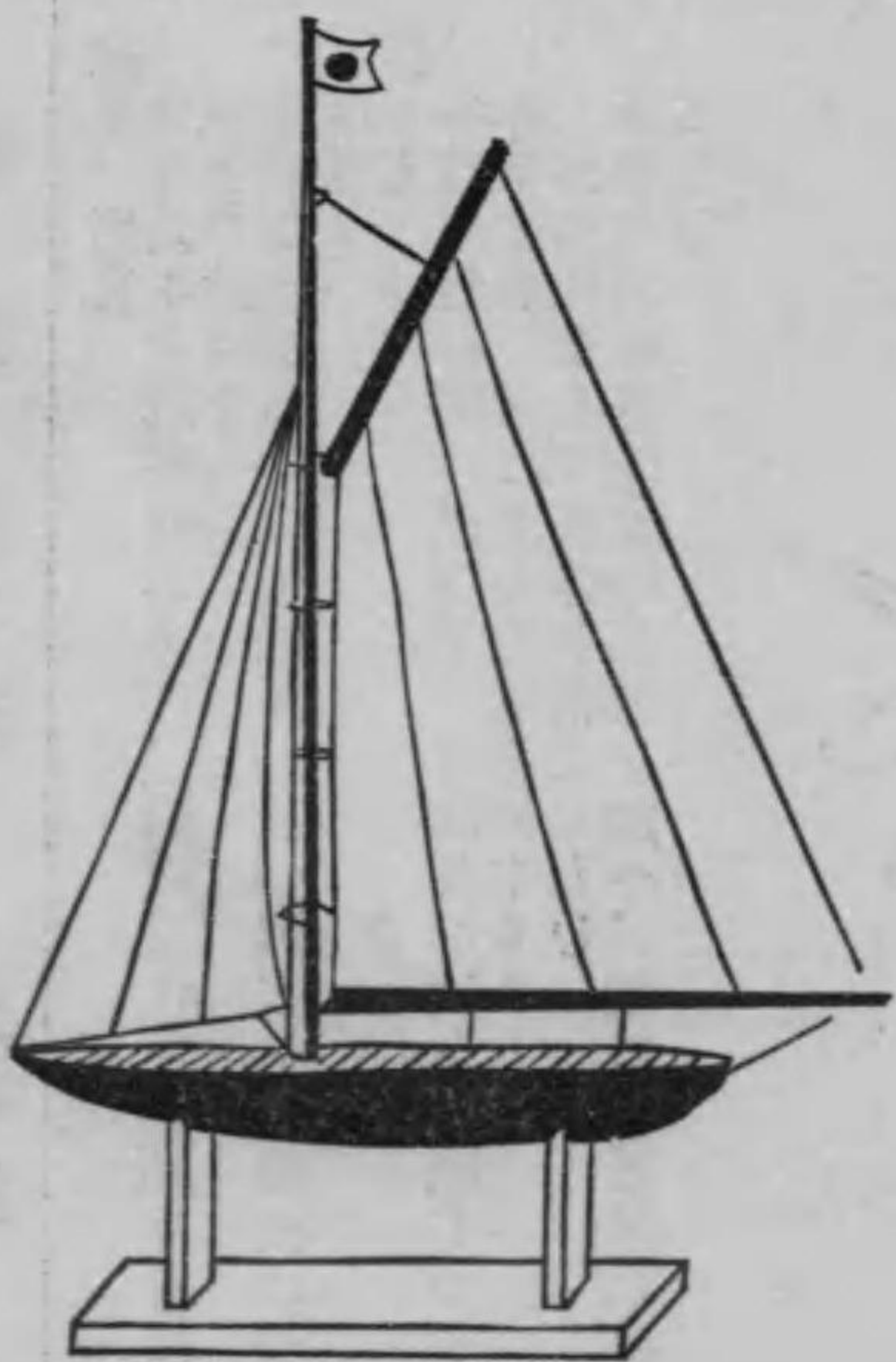
週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教便物	
第九週	竹木細工	ぶらんこ(臨圖工作法)	圖によりてぶらんこを作らしめ、丸木の接合及び組立方順序を會得せしむ	六時 (第一、二時)	適當なる丸木(徑五分以内) 畫用紙	小刀、小鋸、尺度	大形工作圖 參考標本	
教授事項 圖解								
<p>一、觀察、問答</p> <p>1、參考標本を示して、ぶらんこの形状、構造、寸法、等を問答し以て之れが觀念を明確ならしむ</p> <p>2、大形工作圖を示して、工作圖の描き方、寸法の記入法を會得せしむ</p> <p>3、丸木の切り方、接合等の方法を説明し、且つ製作上の要点を示範す</p> <p>二、作り方</p> <p>1、畫用紙(又は筆記帳)に略圖を畫かしめ、各部の寸法を記入せしむ</p> <p>2、圖の寸法に従ひ丸木の材料を切り取らしむ</p> <p>高さ一尺 幅及構造は各自の任意とす</p>								
教授注意								
<p>一、大体は掛圖に依らしめ、一部分の形状は便宜變更せしむるも可なり</p> <p>二、丸木は細き柳の小枝を適當とす、他の雜木の小枝にても可なり</p> <p>三、便宜家庭に於て間に合ふ材料は持參せしむる可とす</p> <p>四、用材の太さ、及び各部の割合につきて注意すべし</p>								



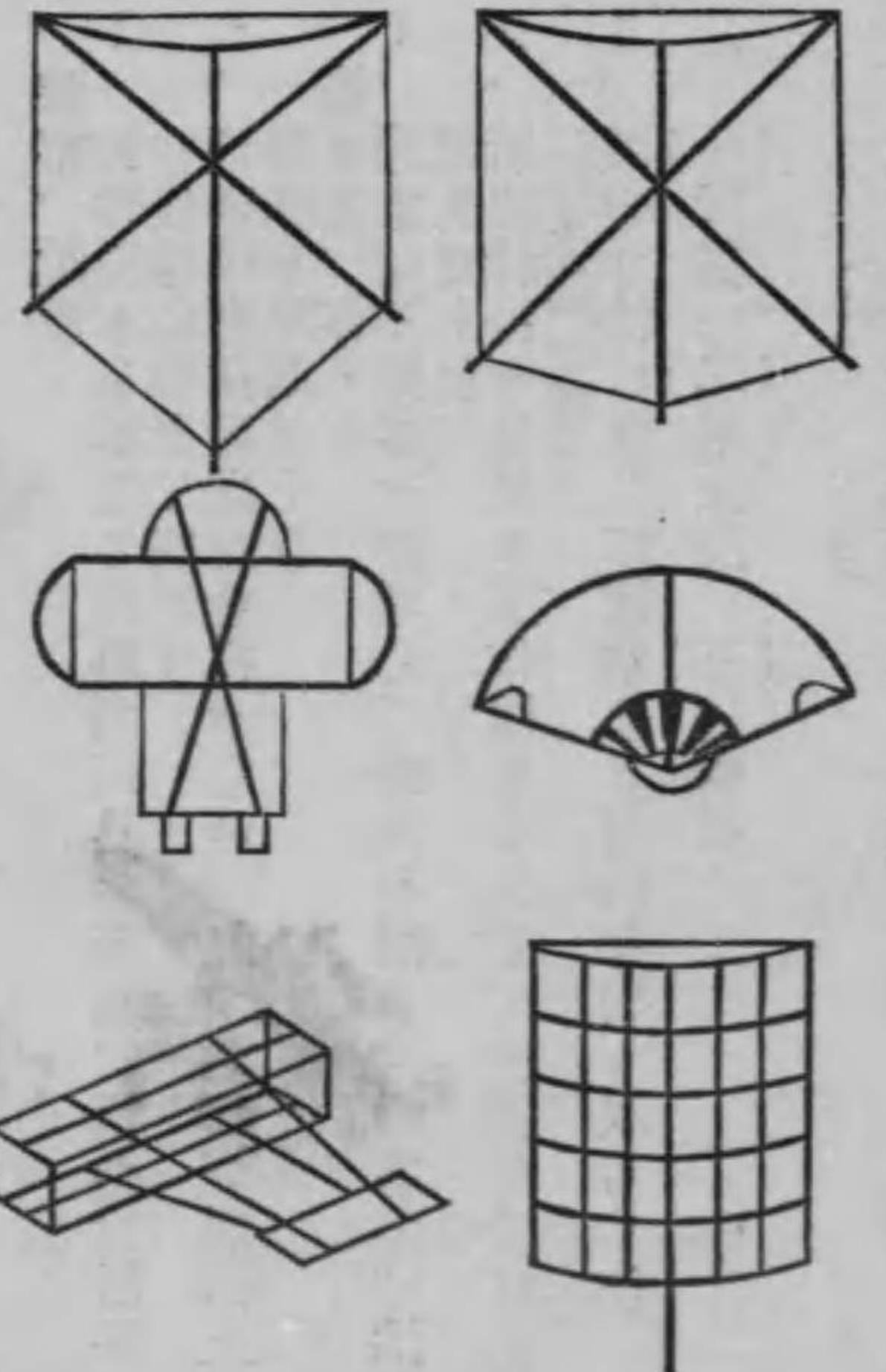
考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	大形工作圖 參考標本	小刀、小鋸、尺度、金槌	前週の未成品、五分の鐵釘、木綿糸、針金等	六時 (第三、四時、第五、六時)	ぶらんこの作り方を授けて方順序を會得せしむ	ぶらんこ(臨圖工作法)	竹木細工	第一〇、一一週
<p>一、觀察、問答</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、實物と工作圖との關係を會得せしめ、且つ各部の形狀、構造、寸法等を明ならしむ</li> <li>2、組立方順序を説明し、且つ工具の使用法及び釘附の方法を問答す</li> </ol> <p>二、作り方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、前週の未成品を取り各自の工夫により、各接合部を鋸にて挽かしむ</li> <li>2、接合部を小刀にて修正し、五分許の鐵釘を以て接合せしむ</li> <li>3、桁より綱を垂れ游動木片を結び付けしむ</li> <li>4、餘力ある児童にはポール紙又は木片にて人形を作り取り付けしむ</li> </ol>								
<p>一、觀察、問答</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、適當なる參考標本數種を示して形狀、構造、寸法について説明又は問答をなす</li> <li>2、参考圖又は前學年児童の成績品を觀察せしめて各自の工夫を誘發し且つ工作圖の描き方を説明す</li> <li>3、紙に工作圖を書かす希望の1、題目を選定せしめ、畫用せしめ且つ製作の順序、寸法及所要材料を記入しむ</li> <li>3、各自の工作圖を檢閲して適否を考評す</li> <li>3、(2)各自の設計に従ひて所要材料を切り取りしむ</li> <li>3、(1)各自の設計に従ひて製作を進め、常に工夫修正に努めしむ</li> </ol>								
<p>一、豫め課題によりて充分設計を考定せしむるか可とす</p> <p>二、課題の際は考案の着想、使用材料の範圍及分量並に製作時間等に關して適當なる注意を與ふべし</p> <p>三、教師は各自の工作圖を檢閲して適當なる注意を與ふべし</p> <p>四、材料は入用に當りて一部分づゝ與ふるも可なり</p> <p>五、特別の材料は各自に持參せしむ</p>								



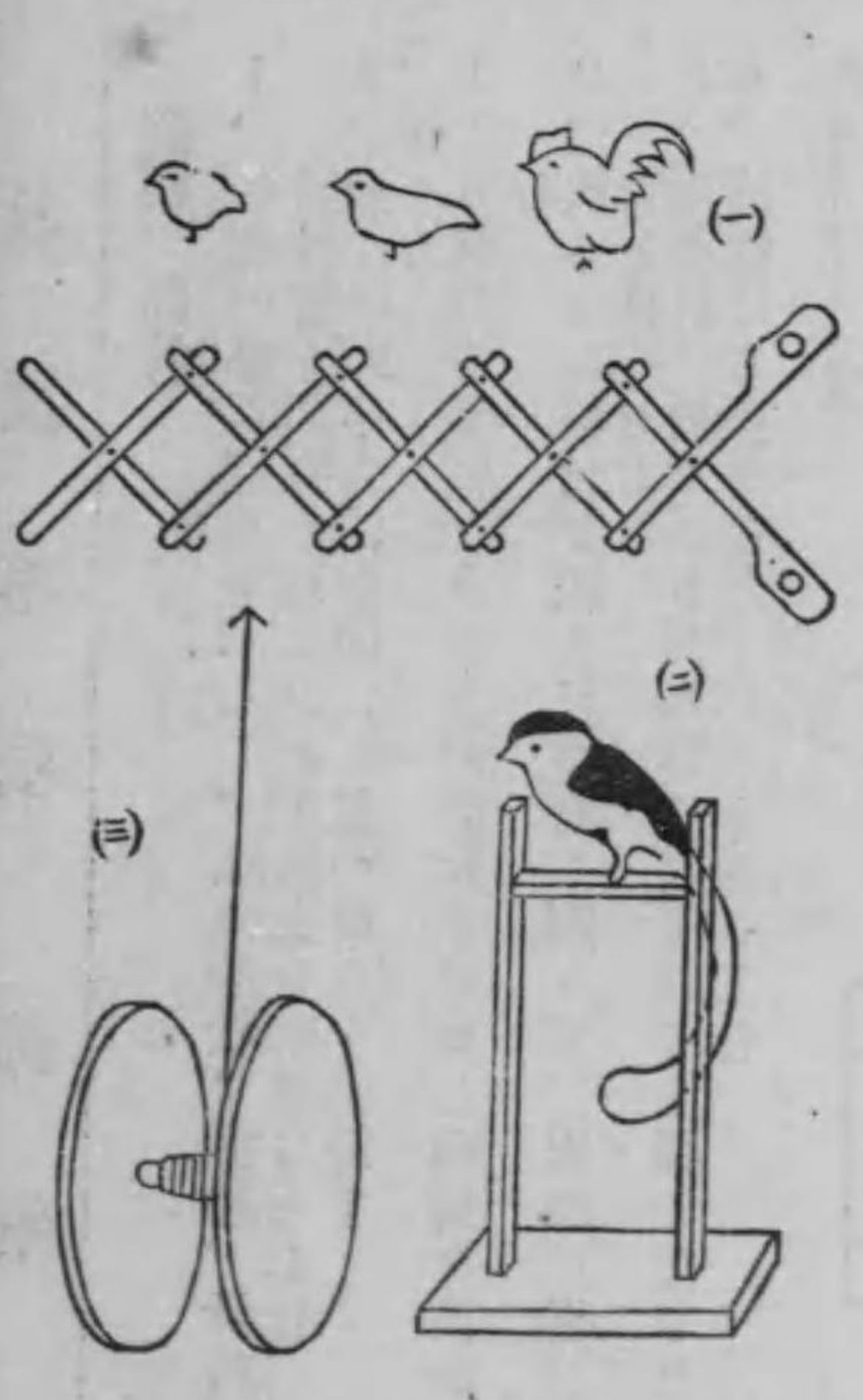
考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	參考標本數種 各種參考圖 前學年児童の成績品	小刀、小鋸、尺度 三角定規、細工臺	薄板、小割材、丸木 丸竹、割竹、畫用紙等	八時 (第一、二時、第三、四時、木取)	前諸課の形式を應用して任意の物品を製作せしめ、意匠と製作の練習をなさしむ	創作(帆船、水車)(丸木小屋の類)(創作法)	竹木細工	第一二、一三週
<p>一、觀察、説明</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、適當なる參考標本數種を示して形狀、構造、寸法について説明又は問答をなす</li> <li>2、参考圖又は前學年児童の成績品を觀察せしめて各自の工夫を誘發し且つ工作圖の描き方を説明す</li> <li>3、紙に工作圖を書かす希望の1、題目を選定せしめ、畫用せしめ且つ製作の順序、寸法及所要材料を記入しむ</li> <li>3、各自の工作圖を檢閲して適否を考評す</li> <li>3、(2)各自の設計に従ひて所要材料を切り取りしむ</li> <li>3、(1)各自の設計に従ひて製作を進め、常に工夫修正に努めしむ</li> </ol>								
<p>一、豫め課題によりて充分設計を考定せしむるか可とす</p> <p>二、課題の際は考案の着想、使用材料の範圍及分量並に製作時間等に關して適當なる注意を與ふべし</p> <p>三、教師は各自の工作圖を檢閲して適當なる注意を與ふべし</p> <p>四、材料は入用に當りて一部分づゝ與ふるも可なり</p> <p>五、特別の材料は各自に持參せしむ</p>								



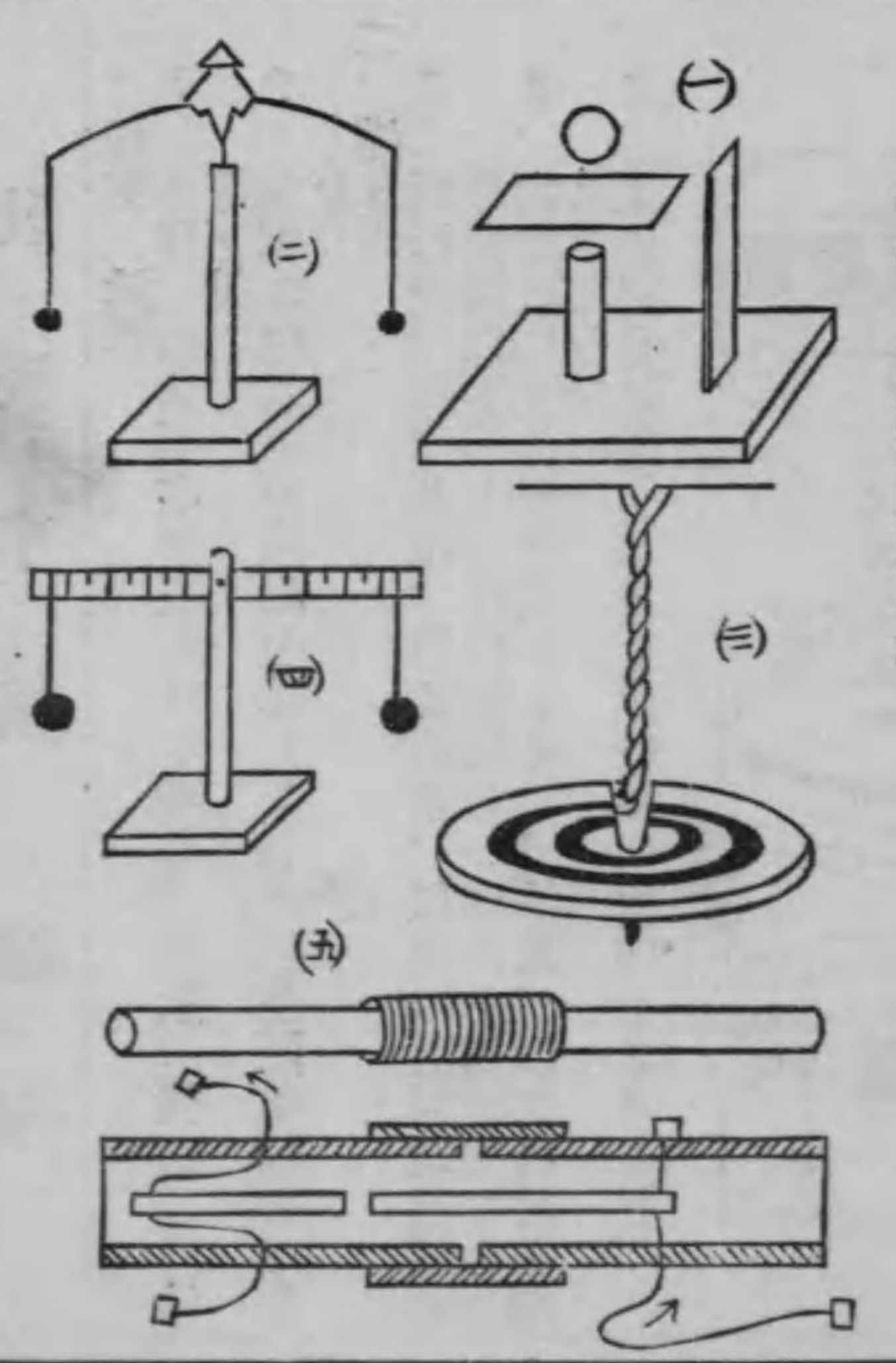
週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教便物	
第一四、一五週	竹木細工	創作(自由選題)(創作法)	前諸課の形式を應用して任意の物品を製作せしめ、意匠の修練製作の練習をなさしむ	八時 (第五、六時 組立) (第七、八時 仕上)	前週の外、鐵釘、針金、紙及布片、糊、ヤスリ紙	小刀、小鋸、尺度 小槌、細工台、等	參考標本又は掛圖 前學年兒童の成績品	
教授事項 圖解								
教授注意								
<p>一、說明、問答</p> <p>1、參考標本を觀察せしめて、組立及仕上の順序方法につきて説明す</p> <p>2、兒童の半成品につき批評し且つ製作上の要点につきて注意す</p> <p>二、作り方</p> <p>1、各自の設計圖に従ひて、寸法及形狀を吟味しつゝ、製作を進め、常に工夫考案をめぐらさしむ</p> <p>2、工作圖に準じて全体を構成せしむ</p> <p>3、琢磨、着色等任意の裝飾を加へ、設計圖と共に提出せしむ</p>					<p>一、教師は常に各自の考案を助け充分兒童を活動せしむべし</p> <p>二、常に個人指導に努め工作及び材料につき適當なる使用法に注意すべし</p> <p>三、適當なる時期に使用材料の品類性質効用を示範すべし</p>			

週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教便物	
第一、二週	竹木細工	凧(形狀任意)(創作法)	各自の考案によりて、任意の凧を作らしめ、意匠及構成の修練をなさしむ	四時	淡竹又は苦竹の切片 上張紙、糊、糸等	小刀、竹削臺、鋏、ヤスリ紙、刷毛等	説明用工具材料 各種の凧の參考標本	
教授事項 圖解								
教授注意								
<p>一、觀察、問答</p> <p>1、各種の參考標本を示して、凧の形狀、構造、材料、寸法等を問答し以て之れが觀念を明確ならしむ</p> <p>2、製作の順序方法を明にし且つ要点を示範す</p> <p>二、作り方</p> <p>1、各自の希望により任意の形狀を考案し略圖を畫かし、與へたる割竹を細く且つ薄く削りて、畧圖に従ひて骨を構成せしむ</p> <p>2、適當なる張をなし、糸目を施さしむ</p> <p>3、圖畫科に於て描きたる彩色畫を以て上張をなさしむ</p> <p>4、適當なる張をなし、糸目を施さしむ</p>					<p>一、豫め課題して十分に形狀を工夫するの餘地を與ふべし</p> <p>二、長き割竹の削り方につき特に注意を與ふべし</p> <p>三、豫め圖畫科の時間に於て適當なる圖案を作製せしむべし</p> <p>四、場合によりてはうなり及び尾をもつけしむるも可なり</p> <p>五、張を爲し又は尾を附ける所以若しくは糸目の附け方によりて凧の飛揚に難易を生ずる理由を明にすべし</p>			

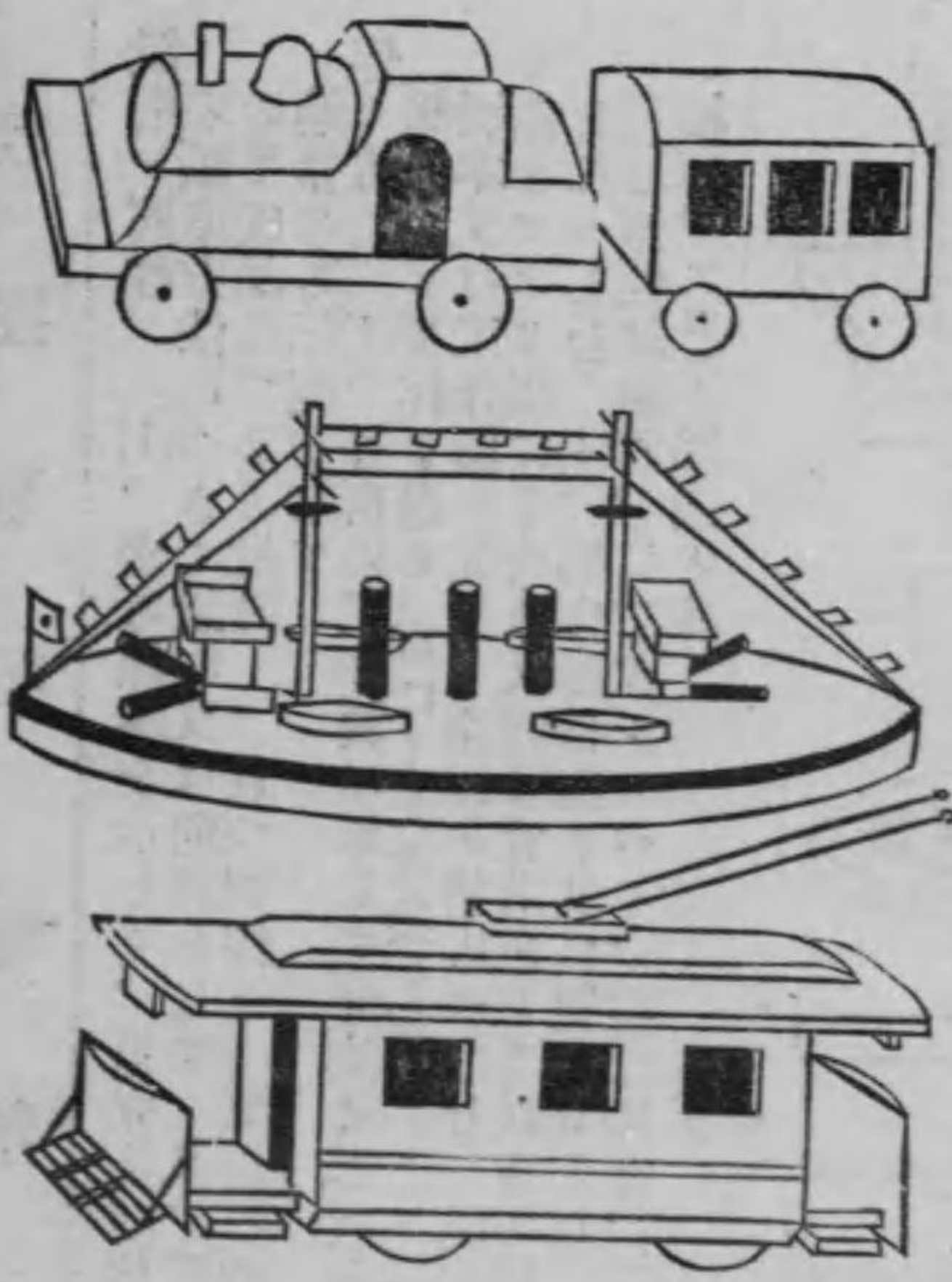
週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			考備
					材料	用具	物便教	
第三週	竹木細工	理科的玩具(創作法)	任意の理科的玩具を作らしめて意匠及製作の練習をなさしめ、併せて理科學應用の趣味を養ふ	六時(第一、二時)	薄板、小割材、割竹丸竹、ボール紙、針金等	小刀、小鋸、錐、尺度、定規、細工臺、等	參考標本數種 說明用具材料 前學年兒童の成績品	
教授事項 圖解								
<p>一、觀察、說明</p> <p>1、相當標本を示して理科的玩具の形狀、構造、材料、寸法等につきて問答す</p> <p>2、理科學應用の理を會得せしめ、且つ之れが製作上の興味を喚起せしむ</p> <p>二、描き方、作り方</p> <p>1、適當なる標本を參考して略圖を描き、各部の寸法を記入せしむ</p> <p>2、所要材料を見積り工作圖を提出して檢閲を受けしむ(以上第一時)</p> <p>3、圖の寸法に準じて適當なる材料を切り取らしむ</p> <p>(一)突貫 (二)尾長鳥 (三)廻轉板</p>								
教授注意								
<p>一、豫め課題して形狀構造を考案するの餘地を興ふべし</p> <p>二、材料を經濟的に取扱ひ且つ成るべく廢物を利用せしむべし</p> <p>三、教師は工作圖の檢閲後必要なる材料を各自に配つべし</p>								



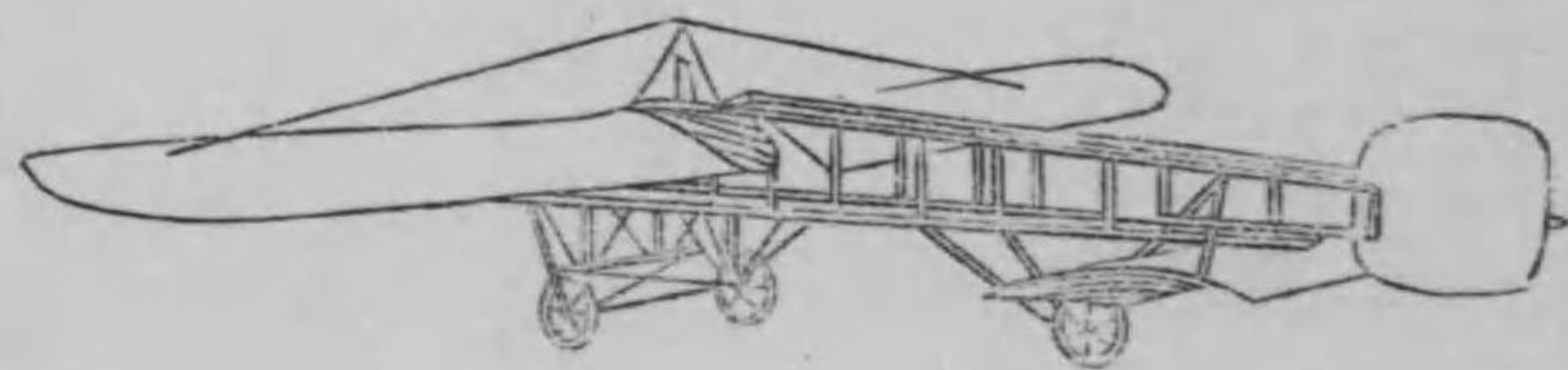
週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			考備
					材料	用具	物便教	
第四、五週	竹木細工	理科的玩具(創作法)	任意の理科的玩具を作らしめて意匠及製作の練習をなさしめ、併せて理科學應用の趣味を養ふ	六時(第三、四、五、六時)	前週の外、鐵釘	小刀、小鋸、四つ目錐、鼠齒錐、尺度、定規、細工臺、小槌等	參考標本數種 說明用具材料	
教授事項 圖解								
<p>一、説明、問答</p> <p>(1) 參考標本を示して、組立及び仕上の順序方法につきて説明又は問答をなす</p> <p>(2) 兒童の半成品につきて批評し、且つ製作上の要点につき適當なる示範をなす</p> <p>二、作り方</p> <p>(1) 各自の工作圖に準じて寸法及形狀を吟味しつゝ製作を進め、常に工夫考案を運さしむ</p> <p>(2) 標本又は工作圖に従ひて全体を構成せしむ</p> <p>(3) 各部をヤスリ紙にて磨き又は便宜着色して任意の裝飾を加へしむ</p> <p>(4) 製品は圖と共に提出せしむ</p> <p>(一) 簡性試験器、(二) ヤジロバイ、(三) 獨樂、(四) 槓杆、(五) 不思議の棒</p>								
教授注意								
<p>一、成るべく種々の標本を示して工夫を誘發せしむべし</p> <p>二、釘の打方につき特に注意を興ふべし</p> <p>三、製品につき理科的應用の理解をなさしむべし</p> <p>四、製作後適當なる批評をなすべし</p>								




週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教具	
第六週	竹木細工	創作(自由選題)(創作法)	前諸課の形式を應用して任意の題目を製作せしめ、意匠及製作の練習をなさしむ	一〇時(第一、二時)	畫用紙	尺度、三角定規、圓規 鉛筆、等	參考標本各種 參考圖 前學年兒童の成績品	
<p>教授事項 圖解</p> <p>一、觀察、說明 1、各種の相當標本を觀察せしめて、形狀、構造、寸法等を説明す 2、前學年兒童の成績品を示して各自の意匠を誘發せしむ</p> <p>二、描き方 1、飛行機、船、鳥籠、各種の車、任意の活動玩具等の參考題目を示し、各自希望の題目を選定せしむ 2、畫用紙に工作圖を描かしめ、寸法及び所要材料を記入せしむ 3、工作圖を提出せしめて、教師の檢閲を求めしむ</p> <p>教授の注意</p> <p>一、二、三週以前に課題し充分之れが準備をなさしむべし 二、課題に當り考案の着想、使用材料の範圍、並びに分量、製作時間等に關して適當なる注意を與ふべし 三、各自の提出せる工作圖につき教師は一々點檢して其の適否を批正すべし 四、家庭に於て間に合ふ材料は次回に持参せしむ</p>								



週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品	備考
第七週	竹木細工	創作(自由選題)(創作法)	前週の設計圖に従ひて、任意に製作せしめ、意匠と製作の練習をなさしむ	一〇時(第三、一〇時)	薄板、小割材、丸木、丸竹、針金、ブルキ片、釘、布片、紙、糊、等	說明用工具材料 各種參考標本並に圖 前學年兒童の成績品
<p>教授事項 圖解</p> <p>一、觀察、說明 1、前週の工作圖につき批評し製作上の要点を説明す 2、製作順序並びに方法につき適當なる示範又は説明をなす</p> <p>二、作り方 1、檢閲を了へたる工作圖につきて、製作の區分、順序方法を考定せしむ 2、設計に従ひて製作を進め常に工夫修正に努めしむ 3、全体の構成後、琢磨着色等任意の裝飾を加へしむ 4、製品と工作圖と共に提出せしむ</p> <p>教授の注意</p> <p>一、材料は入用に當りて一部分宛與ふるも可なり 二、特種の材料は各自に持参せしむるを可とす 三、成るべく廢物利用に努めしむべし 四、教師は個人指導に努め、且つ製作の順序方法につき適當なる注意を與ふべし 五、工具の手入保存につき特に注意を與ふべし 六、成績品は最後の時間前に完成せしめ兒童相互に觀覽せしむべし</p>						



考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	縫取大形標本(二種)櫻花の圖、示範臺、疊針、毛糸布片(一尺許)	鉄、篋、縫針、霧吹、火熨斗丸輪(手枠)	天竺木綿(五寸四方)小町糸(淡赤、綠、黃等)糊	四 時	平縫及びハンカチ縫の縫ひ方を授け、併せて兩者の區別を明らかにしむ	平縫及びハンカチ縫練習(模作法)	糸細工	第一、二週
			<p>一、觀察、問答(1)、平縫の大形標本を示して、之れが縫ひ方順序を明かにしむ</p> <p>二、別を發見せしむ(2)、ハンカチ縫の品質、用途、つき、説明する</p> <p>三、二個の下方に、掛圖により、淡く描かせる(3)、先づ始めの糸の出方、縫ひ方を一方は平縫の縫ひ方を一方はハンカチ縫の縫ひ方を比較して、止めしむ</p> <p>四、裏方の糊を用ひて、縫ひ方をなす(4)、其の上より、火熨斗を掛けしむ</p>					
			<p>一、平縫及びハンカチ縫の用途を並べしむ</p> <p>二、縫ひ方の注意せしむ</p> <p>三、着手前縫裁料の示範を縫ひ方に示し、之れを各自に試しむ</p> <p>四、小町糸は淡赤を以て、櫻花を縫ひ取り、然る後、霧吹をなす</p> <p>五、簡易なる丸輪(手枠)を用ひ、縫取を行はしむ</p>					

教 授 事 項 圖 解

上 教 注 意



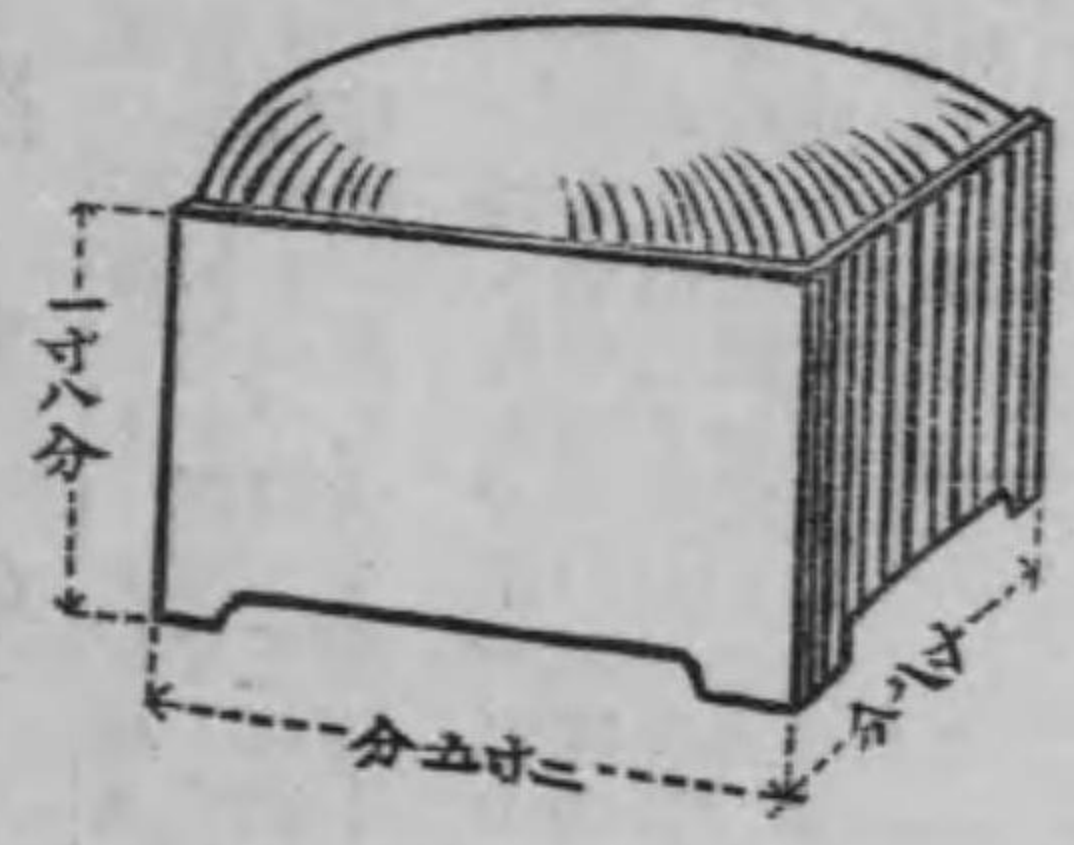




考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具用	料材					
	說明用具材料、實物標本、(完成品、半成品)	鋏、尺度、篋、針、等	用布(表布、心布共各巾二寸五分、長さ一尺一寸宛) 麻緒(長さ二尺八寸)古綿、糸	四時	下駄の緒の作り方(模作法) 兼ねて廢物利用の觀念を授け	針 刺 (模作法)	布片細工	第九週

教授事項 圖解

- 一、說明、問答
- 1、大形標本を示して、外側に貼るべき布片の寸法を問う
- 2、針山の作り方順序につき問答する
- 二、作り方(つぎ)
- 1、適当なる布片を取り、巾二寸三分、長さ九寸に裁ち切る
- 2、之れを箱の周圍に貼付し、下部に適當なる切れ込みを附して布目正しく糊着せしむ
- 3、巾一寸六分、長さ二寸三分の厚紙を採り、之れに梳毛を盛り布片にて覆ひ裏面に其の端を糊着せしむ
- 4、針山を落しの中に嵌め込みしむ
- 5、余力あれば任意の切付裝飾をなさしむ



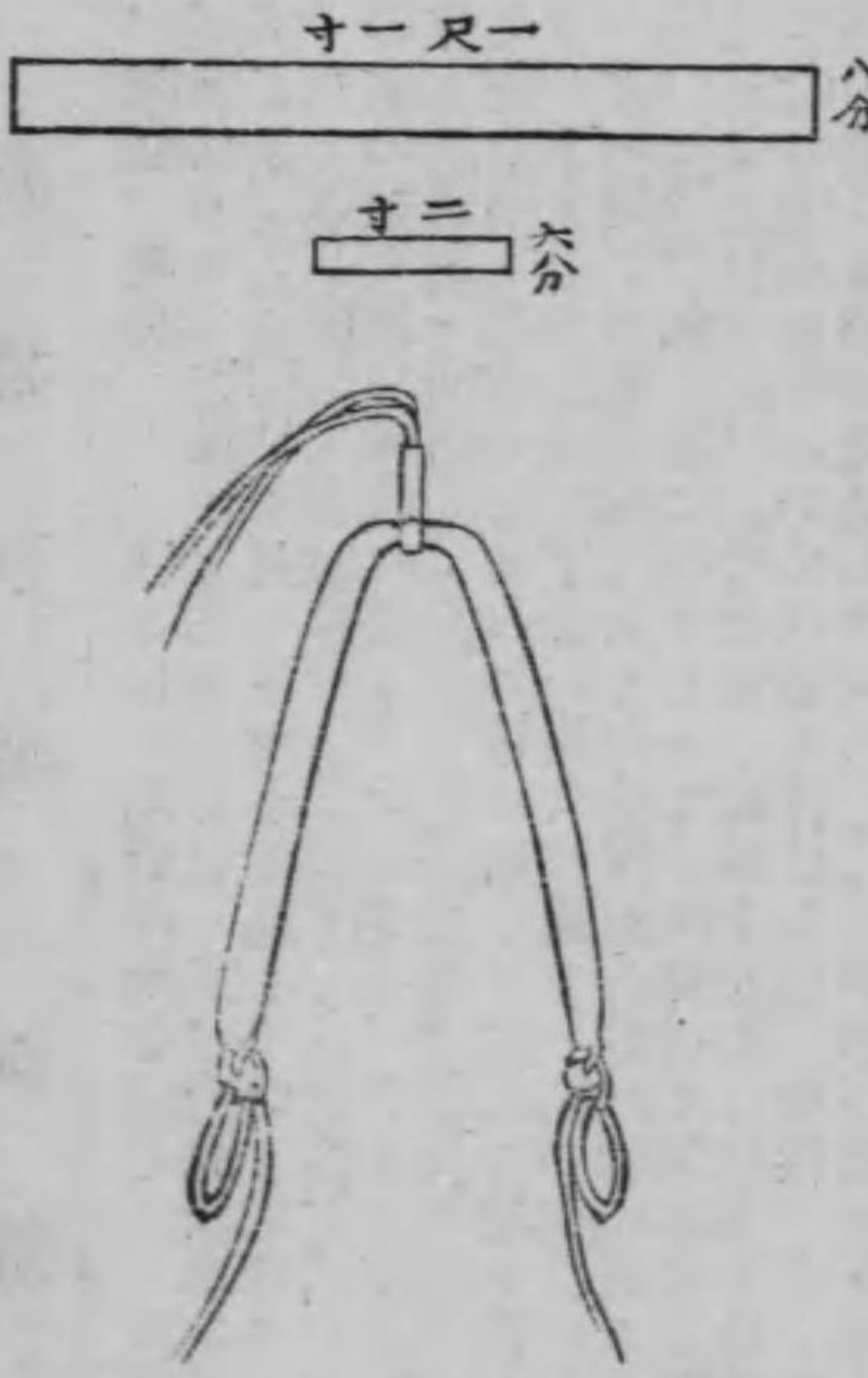
教授注意

- 一、糊の使用法につき注意すべし
- 二、布片は成るべく有合せのものを用ひしめ若し皺のある時は火熨斗を用ひしむ
- 三、布片を貼付したる時間圖には塊鏡を用ひしむ
- 四、製品は實用に供せしむべし

考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具用	料材					
	說明用具材料、實物標本、(完成品、半成品)	鋏、尺度、篋、針、等	用布(表布、心布共各巾二寸五分、長さ一尺一寸宛) 麻緒(長さ二尺八寸)古綿、糸	四時	下駄の緒の作り方(模作法) 兼ねて廢物利用の觀念を授け	下駄の緒の作り方(模作法)	布片細工	第一〇、一一週

教授事項 圖解

- 一、觀察、問答
- (1) 緒の完成標本を示して横緒、前緒、心等各部の名稱材料の品質等につきて問答す
- (2) 半成標本を示して材料の選び方、寸法、作り方、順序等を明らかにしむ
- 二、作り方
- 1、横緒
- (1) 表及び心の用布を採り巾八分、長さ一尺一寸のものを裁ち切らしむ
- (2) 表布の裏面に心布を重ね、其の上を薄く古綿を敷かしむ
- (3) 麻緒を二尺許宛二筋採り、両端五寸許を燃かし、綿の上を載せ、心布を以て縫を施さしむ
- 2、前緒
- (1) 表と共布及び心布を以て、長さ八寸の麻緒を採り、其の両端を燃かし、心布を以て縫を施さしむ
- (2) 前緒を燃かし、心布を以て縫を施さしむ
- (3) 横緒の中央を前緒にて挟み糸にて括らしむ



教授注意

- 一、材料は成るべく廢物を利用せしむべし
- 二、緒の寸法はたてんとする下駄の大きさより割出さしむべし
- 三、便宜材料の品類性質等につきて示教すべし
- 四、教師は大形の材料にて丁寧に示範すべし
- 五、作り方の要点は筆記帳に記さしむべし

週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教便物	
第一二週	布片細工	下駄の緒のたて方(模作法)	緒のたて方を授け、兼ねて日常生活に應用せしむ	二時	前課に於て作りたる緒、古下駄	鉄、手錐(火箸)	説明用具材料 下駄の緒のたて方順序圖	
<p>教授事項 圖解</p> <p>一、觀察、問答 (1) 緒のたて方順序圖を示して、横緒及び前緒のたて方順序を明ならしむ (2) 完成標本を示して、たて方を問答し、且つ要所を示範して圖と對照せしむ</p> <p>二、たて方 (1) 横緒の両小口より綿を引き出し、(2) 右の如く緒の一端に表より穴を穿ち、右より左に輪を作り、左の如く緒の先を初めの輪に通し、(3) 第二の輪を作り置き、(4) 下の緒を引きしめて下駄の横穴に通す、(5) 下の緒を互に引きしめて、中央に四本とも通さしむ</p> <p>(一) 緒の先端を切るか又は巻き付けしむ (二) 結び目の内側に折り燃らしむ (三) 燃らしむ (四) 燃らしむ (五) 燃らしむ</p> <p>適よりみらしむ (六) 燃らしむ</p>								
<p>上教授の注意</p> <p>一、下駄は成る可く古きものを洗ひ磨砂にて磨き新聞紙に包みて持參せしむ</p> <p>二、横緒を通したる時心のみ引かざる様注意すべし</p> <p>三、緒のきつ過る時は履き過ぎのみならず緒も早く切れ足袋も痛むものなればたて上りたる後自ら履きて程よくたてしむべし</p> <p>四、下駄屋にてたてたるものにても余りきつき時は自らたて直す様注意せしむべし</p>								

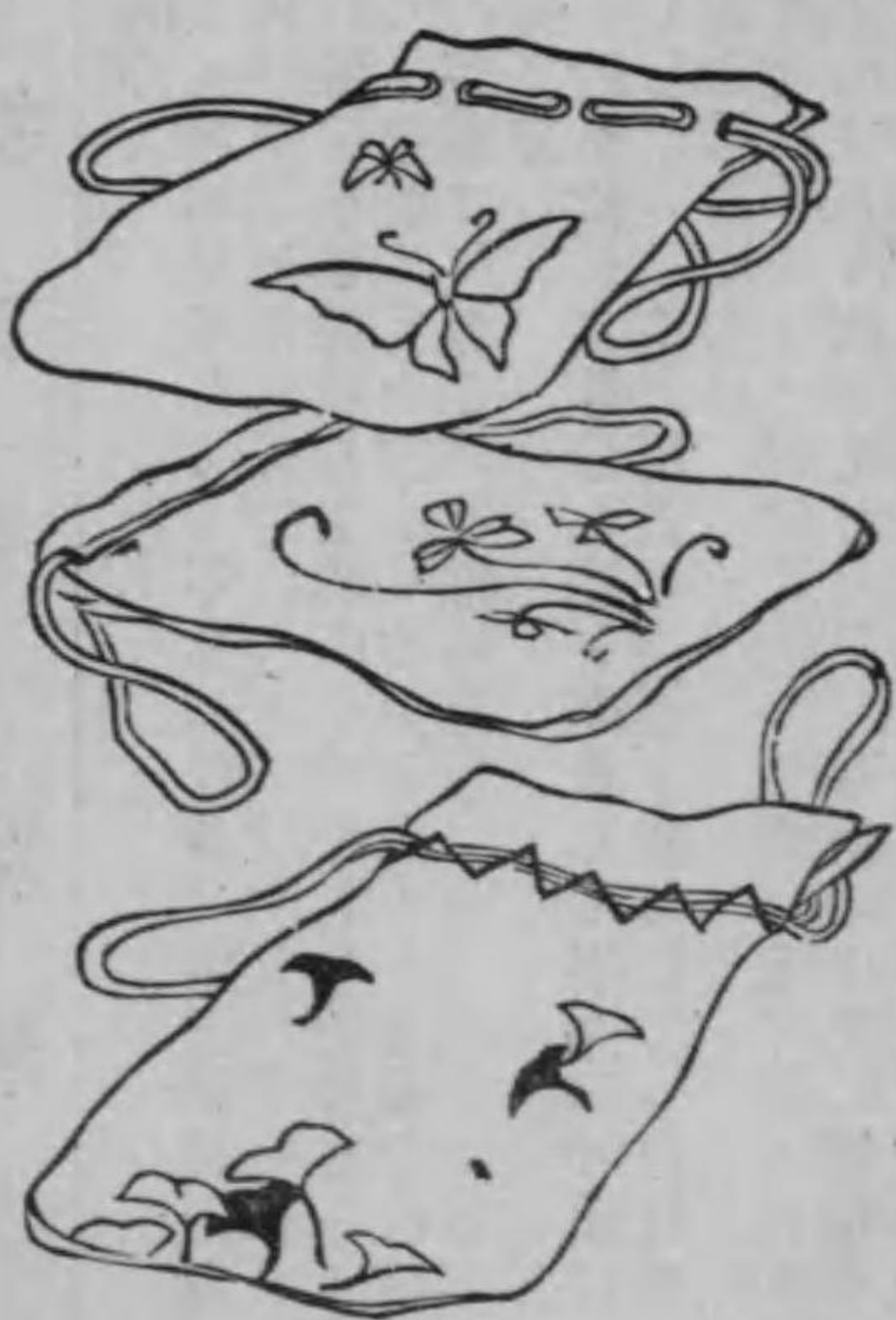
週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教便物	
第一三週	布片細工	花瓶敷(形状任意)(創作法)	任意の花瓶敷を作らしめ形状及裝飾の意匠並に製作の練習をなさしむ	六時(第一、二時)	白色イタリヤネル(五寸平方)小町糸各種、半紙一枚	裁縫用篋、縫針、鉄、丸輪、尺、三角定規、圓規	標本數種、下繪參考圖 説明用具及材料	
<p>教授事項 圖解</p> <p>一、觀察、問答</p> <p>1、出來上り標本數種を示して、花瓶敷には圓形、方形、六角形等種々の形状あること、及び圖案の如何により種々なるものを工夫し得べきことを知らしむ</p> <p>2、參考圖を示し下繪作成上の注意を與へ、且つ各種の縫ひ方の留め方、縫ぎ方等につきて問答す</p> <p>二、下繪の作り方</p> <p>1、先づ半紙をとり圓形、方形、六角形等各自希望の輪廓を描き此の中に掛圖を參考して任意の下繪を畫かしむ</p> <p>2、下繪を用布の上にて載せて篋にて下繪を寫さしむ(便宜極めて薄き紙に下繪を描き之れを用布に假り綴ぢして布片と同時に縫ひ取り後靜かに紙を剝ぎ取りしむるも可なり)</p>								
<p>上教授の注意</p> <p>一、豫め他の布片にて針の使ひ方、糸の留め方、縫ぎ方等を練習し後實物に取りか、らしむるを可とす</p> <p>二、圖案は一應點檢したる後實習せしむるを可とす</p> <p>三、下圖には模様の外縫ひ方の名稱色等を記入せしむべし</p> <p>四、時間の都合によりて縫ひ初めしむるも可なり</p>								

週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教具	
第一四、一五週	布片細工	花瓶敷(形狀任意)(創作法)	任意の花瓶敷を作らしめ 形状及裝飾の意匠並に製 作の練習をなさしむ	六時(第三、四、五、六時)	白色イタリヤネル、 小町糸各種	縫針、筋篋、鉄、火熨斗 霧吹	標本數種 説明用具材料 前學年兒童の成績品	
教授事項 圖解								
<p>一、説明、問答</p> <p>1、參考標本數種を示し、模様を縫ひ方順序を問答す 2、針の使ひ方、糸の留め方、縫ぎ方、及仕上げの方法 につきて説明又は問答をなす</p> <p>二、縫取方</p> <p>1、鎖縫、平縫等を應用して下圖に従ひ適當なる色糸を 以て縫ひ取らしむ</p> <p>2、標本を參考し、針足の長短に注意して任意に縫ひ上 げしむ</p> <p>3、縫ひ上げたものは霧をかけ火熨斗を當てしむ</p> <p>4、周囲の模様外を切り取り仕上げをなさしむ</p>								
<p>上教授の注意</p> <p>一、手早き兒童には模様を複雑なるものを用ひしめ且つ周囲の縫方は針目をつめて緻密なる縫ひ方によらしむるを可とす</p> <p>二、色糸の配合に注意すべし</p> <p>三、仕上げを丁寧になし且つ周囲を切り落す際、縫ひ糸を切らざる様注意すべし</p> <p>四、常に姿勢に注意し個人指導に努むべし</p>								



週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教具	
第一週	糸細工(縫取)	鎖縫、返し縫、けし縫 (模作法)	裁縫科の運針と連絡して 鎖縫の基礎的練習をなさ しむ	二時	天竺木綿(半巾一尺許) 小町糸各種	縫針、尺度、鉄、筋篋等	實物標本各種 示範臺、大針、毛絲等	
教授事項 圖解								
<p>一、觀察、問答</p> <p>1、裁縫科に於て通常用ふる縫ひ方の名稱及用途につ て問答す(本縫、ミシン縫、マトヒ縫、千鳥縫等)</p> <p>2、鎖縫、けし縫、返し縫等の實物標本を示して、名稱 縫ひ方、用途につきて問答す</p> <p>二、縫取方</p> <p>1、練習用布をとり篋又は鉛筆にて五寸宛の長さ直線 及び曲線數本を描かしむ</p> <p>2、示範臺にて鎖縫、返し縫、けし縫等につき針の出 方布目との關係を示範す</p> <p>1、鎖縫は裏より糸を出し輪をなして返し次に先の輪に糸を掛けて更 に輪をなして順次同様に縫ひ行くべし(二重の線を用ひ、糸の間に 出し行くも可なり)</p> <p>2、ケシ縫は最も細く、粟粟粒の如く點に縫ひ、布片の縦糸一筋又は 二筋置きに縫ふべし</p> <p>3、返し縫は本返しと半返しとあり一針づつ、一目先より糸を出し、後 返し同様に縫ひ行くべし</p> <p>3、 下圖に 縫ひ方 を返し 縫ひし る種し る種し る種し る種し る種し る種し</p> <p>ひぬりさく ひぬしけ ひぬしへか</p>								
<p>上教授の注意</p> <p>一、本課を授くる際には裁縫科の連絡を密接ならしめて各種縫ひ方の基礎的練習をなさしめ且つ其の應用の場合を明にすべし</p> <p>二、運針は大形の材料にて示範し且つ布目との關係を會得せしむべし</p> <p>三、本課に用ふる材料は便宜風呂敷、ハンカチ等動、代用して練習を代用し、實用的な裝飾的ならざる様注意せしむべし</p> <p>四、運針の際に姿勢を正し、針の張目を揃へ、糸の張目を揃へ、縫ひの緊張を注意すべし</p> <p>五、半返し本返しの別、又は半返し、ケシ縫、ミシン縫との關係を會得せしむべし</p> <p>六、個人指導に努むるに注意すべし</p>								

週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教便物	
第二、三週	糸及布片細工	手提袋 (模作法)	手提袋の作り方を授け、併せて縫取を應用したる線縫模様の裝飾を施さしむ	六時(第一、二、三、四時)	表布(ガスマス又は金巾、幅六寸、巾六寸五分、長さ一尺一寸) 小町糸各種、半紙一枚	縫針、尺度、鉄、火熨斗 等裁縫用具一切	出来上り標本 縫取参考圖	一、說明、問答 1、相當標本を示して手提袋の形狀、構造、裝飾等につきて問答す 2、各種の縫ひ方を問答して縫取方順序を會得せしむ 二、用布の裝飾(縫取) 1、縫取の參考圖を示し、各自任意の下繪を半紙に描かしむ 2、下繪を用布の上に當て上より線を筥にて標し、布片に寫さしむ 3、前課の鎖縫、けし縫、返し縫を應用して縫ひ取らしむ 4、縫取の出来上りたる後、火熨斗をかけ、布片を直さしむ
					教授事項 圖解			上教授の注意
								<p>一、縫取の位置に注意し袋に仕上げたる後適當なる場所に模様の表はる、模注意すべし</p> <p>二、線模様の下繪は便宜時間外に於て適當なる模様の紙上に寫し置き之れを用ひしむるも可なり</p> <p>三、前課の各種縫方を應用して線模様の縫ひ取らしむべし</p> <p>四、用布と糸との配色、並に針目と布目との關係に注意せしむべし</p>

週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教便物	
第四週	糸及布片細工	手提袋 (模作法)	手提袋を作らしめて、布片の裁方、縫ひ方、紐の附け方を練習せしむ	六時 (第五、六時)	裏布(新モス又は金巾、幅六寸、巾五分、長さ一尺一寸) 小町糸又はガスマス、打紐(三尺)	裁縫用具一切 鍔及鍔臺	出来上り標本 分解標本(表裏各兩脇のみ) 縫ひたるもの	一、觀察、問答 1、出来上り標本を示して、手提袋の形狀、構造、寸法、用途を問答す 2、分解標本を示して、手提袋の製作順序を明ならしむ 3、用布の裁ち方、縫ひ方、紐の掛方、紐の付け方等につきて説明又は問答をなす 二、作り方の寸法により表布と裏布とを裁たしむ 1、(表) 横六寸、縦一尺一枚 (裏) 横五寸九分、縦九寸八分一枚 2、裁ちたる布は表裏の口を縫ひ合せ、次に二分の縫代に左右の脇を四つ縫ひとさしむ 3、但し裏脇の口の方一寸縫ひをなし底となさしむ 4、縫ひ上りたる後、縫ひ返ししむるものとす 5、縫ひ上りたる後、縫ひ返ししむるものとす
					教授事項 圖解			上教授の注意
								<p>一、両脇は充分針目を細く返し縫ひせしむべし</p> <p>二、両脇を縫ふ時表裏共縫に縫ひたる後下端より五分上の所を横に縫ひ其の三角の縫ひ込みは脇縫ひの所にさめおく可なり</p> <p>三、紐の附け方は便宜各自の任意となさしむるも可なり</p> <p>四、材料は成るべく家庭の廢物を利用せしむべし</p> <p>五、製品は實用に供せしむべし</p>

考 備	教 授 用 品			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具用	料材					
	出来上り標本、工作圖 下繪參考圖	尺度、圓規、三角定規 鉛筆等	半紙一枚、糊	八時 (第一、二時)	半襟に應用すべき簡易なる圖案を考案せしめ、以て意匠の修練をなさしむ	半襟縫取 (創作法)	糸細工 (縫取)	第五週
教授事項 圖解								
<p>一、説明、問答</p> <p>1、出来上り標本を示して、半襟の長さ、幅、模様の大さ位置、年齢との關係等につきて説明又は問答する</p> <p>2、半襟は服装中重要なものの一つにして些細なるものにも服装の美を左右する力をもつものなれば慎重に圖案すべきことを知らしむ</p> <p>二、圖案の描き方</p> <p>1、半紙一枚を縦に二等分し端を糊着して半襟の寸法に裁たしむ</p> <p>2、右の用紙に掛圖を參考して各自任意に下繪を描かしむ</p> <p>3、(1)の模様は中央より両端に向つて四、五寸隔りたる所に其の上部を描かしむ (2) 布幅の中央に模様を置き且つ其の幅は全幅の1/3以上となさしむ (3) 上前と下前は全く同一の模様により對稱せしむ (4) 上圖案作成後各種の縫方及色系の配合等を記入せしむ</p>								
教授注意								
<p>一、圖案は便宜圖畫料に於て作成せしめ之れを應用して直に縫取に着手せしむるも可なり</p> <p>二、下繪は教師一々點検して圖柄及縫方の適否を批評し後實地に應用せしむべし</p> <p>三、半面の下繪を考案せしめ他は用紙を二つ折りにして寫さしめて可なり</p>								



考 備	教 授 用 品			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具用	料材					
	出来上り標本、工作圖 説明用工具材料	縫針、鉄、尺度 火熨斗、枠	用布、新モス 幅四寸、長さ二尺三寸 小町糸各種、圖案	八時 (第三、八時)	前諸課の形式を應用して前課の圖案を半襟に應用せしめ、意匠及び縫取の練習を成さしむ	半襟縫取 (創作法)	糸細工 (縫取)	第六、七、八週
教授事項 圖解								
<p>一、説明、問答</p> <p>1、前週描きたる圖案につき批評をなす</p> <p>2、出来上り標本を觀察せしめて、縫取の位置、及び作成の順序を問答し、且つ工作圖との關係を會得せしむ</p> <p>3、縫取上注意すべき事項を問答し、且つ各自の意匠を決定せしむ</p> <p>二、縫取り方</p> <p>1、先づ下圖を布片に重ねて模様を寫さしむ</p> <p>2、縫方の順序、糸の色合並びに製作の區分を考定せしむ</p> <p>3、各自の意匠によりて、任意に縫取らしめ且つ極めて綿密に行はしむ</p> <p>4、縫ひ終りたれば火熨斗をかけ仕上をなさしむ</p>								
教授注意								
<p>一、下繪を用布に寫すには復寫紙(糊粉)に繪具を加へ之れに少量の膠を加へたるもの(紙に塗り之れを乾したるものを用ひしむるを便利とす</p> <p>二、模様的位置及び配色に充分意を注がしむべし</p> <p>三、縫取を成す際は手指をよく洗ひ且つ手の下に紙片を敷きて布の汚染を防がしむべし</p> <p>四、姿勢に注意し緻密なる習慣を養成すべし</p> <p>五、製品は圖案と共に提出せしむべし</p>								





考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	古箱の利用 (厚紙布片)	小刀、鋏、定規、尺度、糊、縫針、熨斗等	ポールの紙製の古箱、色紙、布片、心紙、糸、糊等	六 時	各自の工夫により古箱の工を施し之れが利用の道を計らしむ	古箱の利用 (創作法)	布片細工 (厚紙布片)	第一三、一四、一五週

一、説明、問答 1、古箱を利用したる標本數種を示して其の加工法を問答す

2、右の加工法を應用して各自任意に其の意匠を考定せしむ

二、作り方(一例)

1、各自の箱の大きさ深さ等の寸法を査定して貼るべき色紙又は布片の大きさを圖に引きて寸法を記入せしむ

2、圖に従ひて所要の色紙及び布片を裁ち切らしむ

3、古箱の内外を六分幅位の綿片にて貼りつけしむ

4、蓋の表面には縫取、切付、又は押繪等任意の裝飾をせしむ

5、蓋の裏面に糊を塗りつけしむ

一、古ボール箱に加工して再び使用に堪へ得る様各自の意匠によりて其の實を擧げしむべし

二、各自用ふる材料裝飾加工法につき個人指導に努むべし

三、本課は廢物利用を目的とすれば周圍に用ふる布片は成るべく家庭の不用品を利用せしむる様努めしむべし

上 教 授 注 意

考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	古箱の利用 (厚紙布片)	小刀、鋏、定規、尺度、糊、縫針、熨斗等	ポールの紙製の古箱、色紙、布片、心紙、糸、糊等	六 時	各自の工夫により古箱の工を施し之れが利用の道を計らしむ	古箱の利用 (創作法)	布片細工 (厚紙布片)	第一三、一四、一五週

一、觀察、問答 1、一ツ口銀貨入を示して、其の形狀、構造、寸法、用途を問答す

2、大形工作圖を示して、實物との關係を會得せしめ、且つ之れが作り方順序を明ならしむ

二、作り方

1、幅三寸六分長さ七寸九分に形紙を切り、周圍僅に糊を塗りつけしむ

2、裏用布は表より幅一分、長さ二分狭く裁ち、表と同様に糊を塗りつけしむ

3、表裏の各用布を中表に重ね目打(篋)にて二分の縫代に縫つけしむ

4、先づ上部の口を縫ひ合せ後折り重ねて左右を返縫となし折り目を附けて表に返さしむ

5、上部を糊付し全体に鍔をかけて仕上をなさしむ

一、本細工は布片たれ共曲尺を用ひしむ

二、布片は成るべく家庭の廢物を利用せしめ、決して華美品を競はしめざる様豫め注意すべし

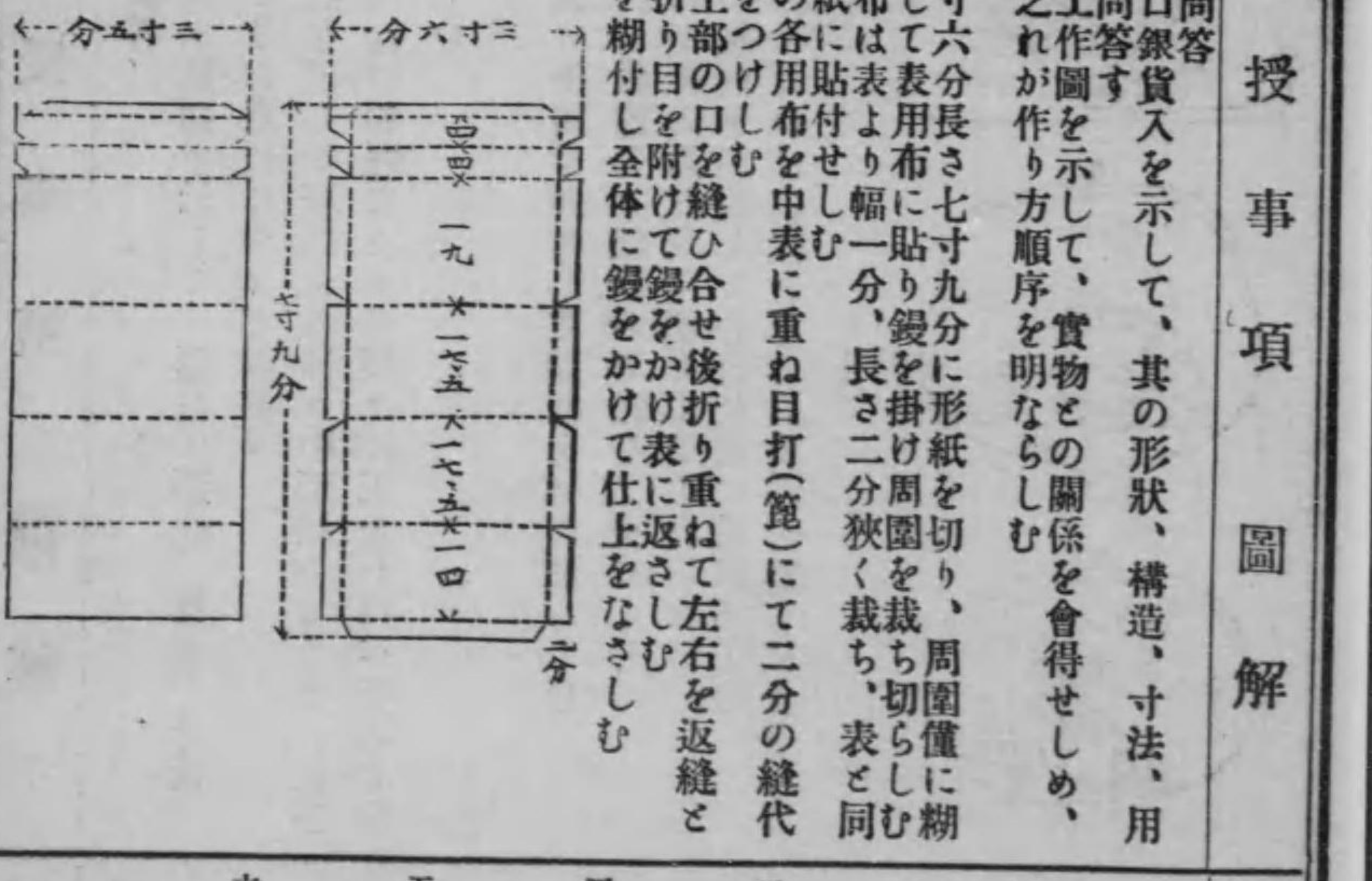
三、返し縫をなす際表用布に少しく垂みをつけしむべし


四、布片に貼られたる型紙は鍔をかけた後周圍を裁ち切らしむ

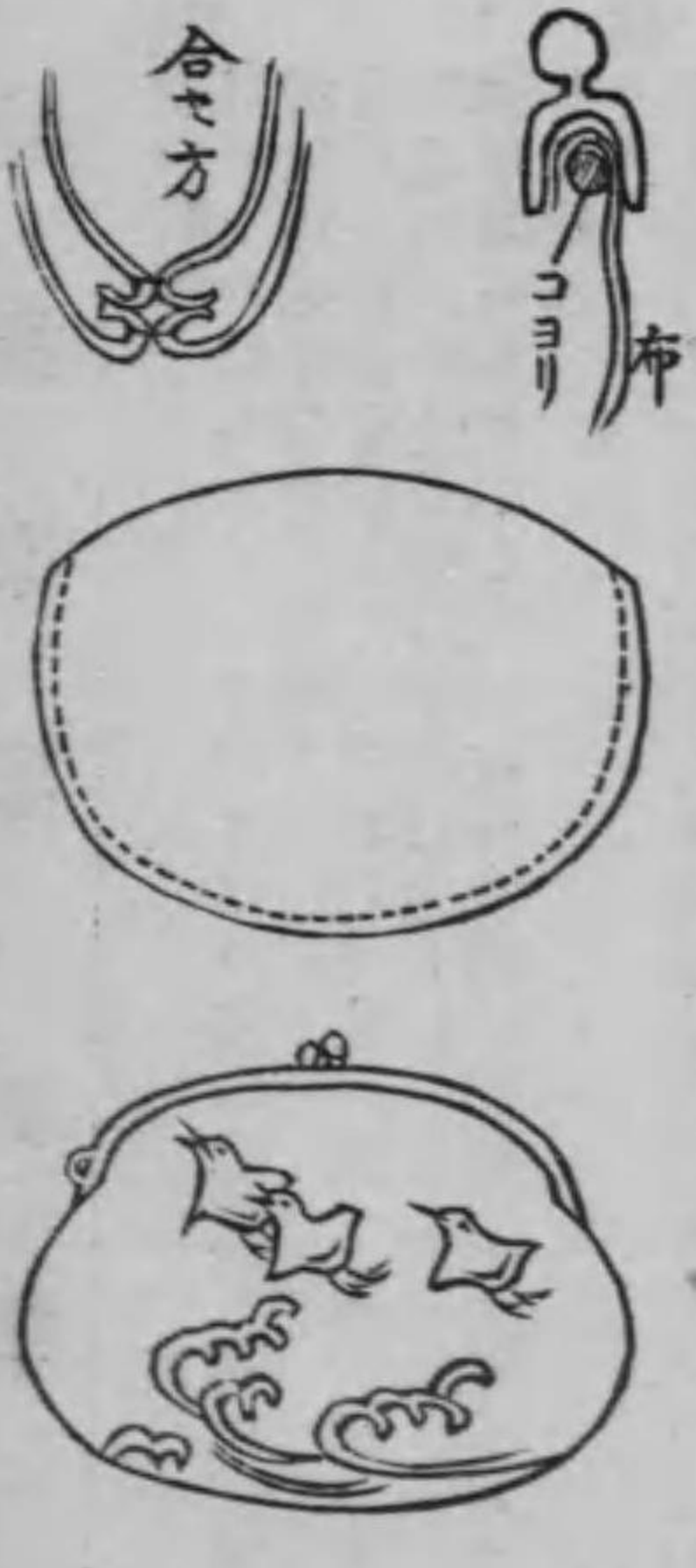
五、個人指導に努め最も綿密に勤勞の習慣を養ふ様心掛けしむ

六、筆記帳に圖を記入し寸法を入れ置かしむ

上 教 授 注 意



週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			考備
					材料	用具	教便物	
第三、四週	布片細工	褙口 (模作法)	褙口の作り方を授け、併せて之れに縫取裝飾を應 用せしむ	八時(第一、二、三、四時)	布片(幅三寸五分)表裏一枚宛 小町糸、半紙、等	縫針、鋏、尺度、篋、棹 霧吹、火熨斗、手工帳	參考標本數種 下繪參考圖 説明用工具材料	<p>一、観察、問答</p> <p>1、實物標本數種を示して、褙口の形状、構造、寸法、並びに其の意匠につきて問答す</p> <p>2、參考圖を示して褙口には種々の形状あること、及び縫取裝飾の如何によりて種々に工夫し得べきことを知らしむ</p> <p>二、作り方</p> <p>1、實物又は掛圖を參考して型紙を切り取らしむ</p> <p>2、型紙内に相應しき縫取の下繪を工夫せしむ</p> <p>3、用布に型紙の形状及下紙を寫さしむ</p> <p>4、既習の縫取を應用して各自任意に縫取らしむ</p> <p>5、縫ひ終りたれば霧吹をなし火熨斗を當て仕上をなさしむ</p>
<p>教授事項 圖解</p> 								<p>上 注意</p> <p>一、型紙は成るべく切抜を應用して各自に切り抜かしむるを可とする</p> <p>二、縫取の下繪は豫め各自に考案し置かしむれば一層可なり</p> <p>三、縫取の大き及び位置につき製品との關係を充分注意すべし</p>

週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			考備
					材料	用具	教便物	
第五、六週	布片細工	褙口 (模作法)	褙口の作り方を授け、併せて之れに縫取裝飾を應 用せしむ	八時(第五、六、七、八時)	前課の未成品(表裏布)口金(丸形二寸三分)、木綿糸、心紙	縫針、鋏、尺度、篋、鍔型木、目打等	出來上り標本 説明用工具材料	<p>一、説明、問答</p> <p>1、出來上り標本を示して、褙口の作り方順序を會得せしむ</p> <p>2、大形の材料を以て口金の取附方を明確に知得せしむ</p> <p>二、作り方</p> <p>1、前課の圖案に従ひて心紙を型に切り、周圍五厘許りに糊付けして布片に貼付し周圍を裁ち切らしむ</p> <p>2、表と裏とを別々に周圍を返縫ひとなし、何れも表に返し縫目を両開きになして適當に落付けしむ</p> <p>3、表裏を重ね、縫目の開きたる所に紙帯を入れ、布片に糊付けして口金に入れ置き其の上に紙摺を當て目打にて差し込ましむ</p> <p>4、縫目に型木を當て鍔を掛けて仕上をなさしむ</p>
<p>教授事項 圖解</p> 								<p>上 注意</p> <p>一、布片に用ふる糊は硬糊又は盤石糊を可とする</p> <p>二、布片を縫ひ合すには木綿糸を用ひ極めて細き返し縫にて硬く縫はしむべし</p> <p>三、口金に入る、には先づ布片の中央より左右に差し込み殊に先端と縫目を正しくする様注意すべし</p> <p>四、型木は曲面に鍔を掛ける際に用ひ數人に一個宛用意するを可とする</p> <p>五、心紙は表布に稍厚きものを用以裏布には薄き紙にて可なり</p>

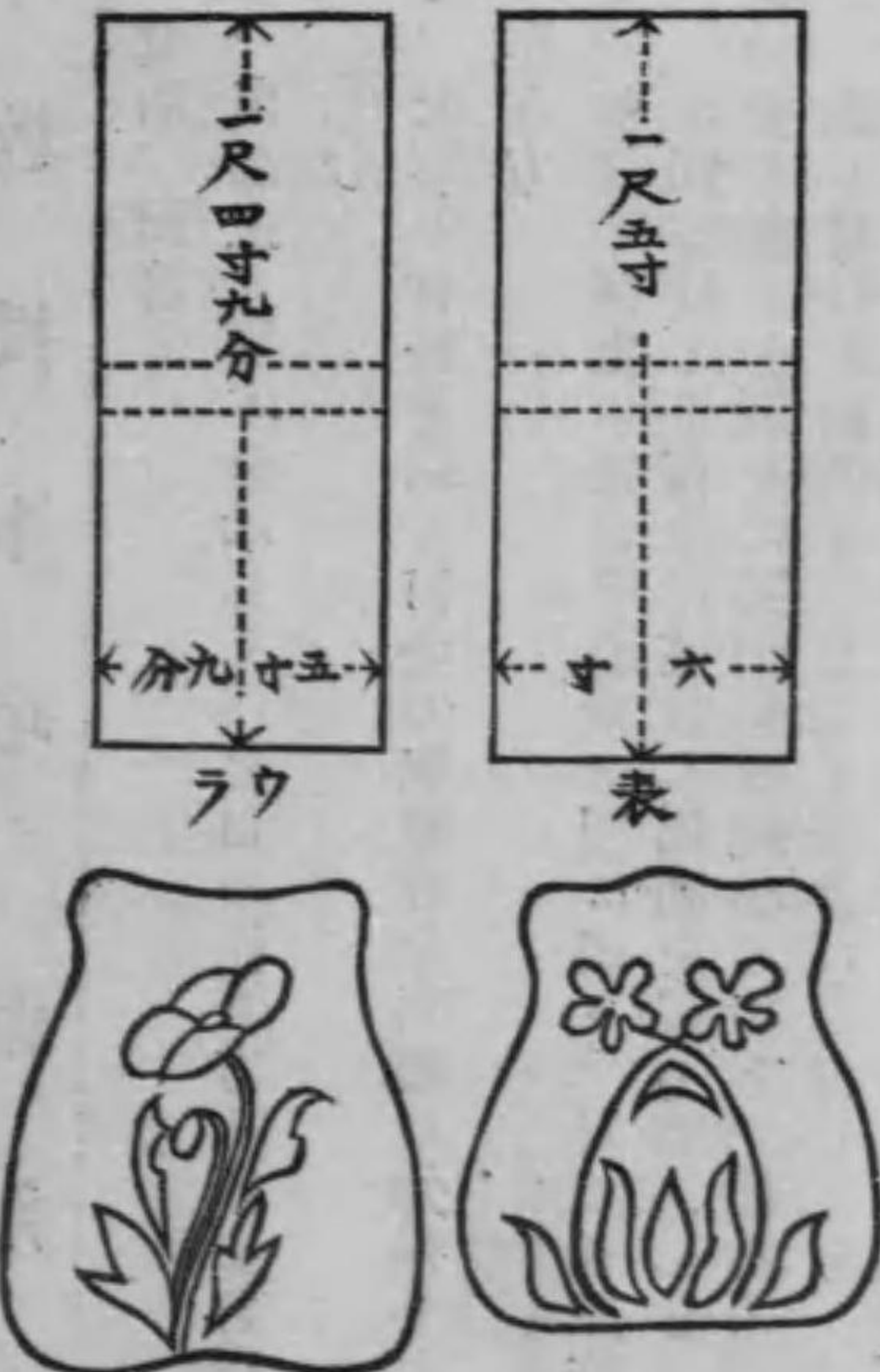


週次 第七、八週

考備	教授用品			時數	要旨	題目	種目	週次
	教具	用具	材料					
大形工作圖、 説明用工具材料	縫針、鋏、 手帳	尺、 鏡	前課の半成品、 打紐、糸	八時 (第一、二、 三、四時)	おべら袋の作り方を授け、 併せて手藝の趣味と緻密 の習慣とを養ふ	おべら袋 (模作法)	布片細工	第九、一〇週

教授事項 圖解

- 一、観察、問答  
1. 出来上り標本を示して、おべら袋の形状、構造、寸法、用途について問答する。
2. 大形工作図を示して、用布の寸法、裁ち方、縫ひ方等を説明する。
3. 縫取参考図を示して、おべら袋に相應しき圖案について問答する。
- 二、作り方  
1. 手帳に工作図を描か、しめ所要の寸法を記入せしむ。
2. 半紙におべら袋の形状及び縫取の寸法を描かしむ。
3. 下布に心紙を貼る。
4. 用布に心紙を貼る。



- 上教授注意
- 一、縫取の應用によりて意匠の修練をなさしむ
  - 二、袋の形状及縫取は各自の隨意になさしむるも可なり
  - 三、用布は成るべく家庭の不用品を利用せしむべし
  - 四、作業中は兒童の姿勢に留意し最も緻密なる習慣を養ふべし
  - 五、縫取をなす際には色糸の配合及び糸の經濟に注意せしむべし

週次 第九、一〇週

考備	教授用品			時數	要旨	題目	種目	週次
	教具	用具	材料					
出来上り標本、 大形工作圖、 説明用工具材料	縫針、鋏、 尺、鏡	手帳	前課の半成品、 打紐、糸	八時 (第五、六、 七、八時)	おべら袋の作り方を授け、 併せて手藝の趣味と緻密 の習慣とを養ふ	おべら袋 (模作法)	布片細工	第九、一〇週

教授事項 圖解

- 一、観察、問答  
1. 半成品につき批評し且つ仕上の順序方法を問答する。
2. 工作図によりて口金のつけ方を説明し且つ適當なる示範によりて充分會得せしむ。
- 二、作り方(ツツキ)  
1. 表布と裏布を合せて口先を縫ひ、協明けを一寸許り宛四ヶ所縫ひ、其下を四つ縫ひになさしむ、裏布に引返し縫ひを縫ひ、其の所より裏底の両端に三角形(五分許)を作り、其の折り目を縫ひて表に返し、残した一枚を縫ひ、打紐にて金と共口の部分は金の長さにて縫ひ、打紐にて金と共口の部分は金の長さにて縫ひ、打紐にて金と共最後に口金をなさしむ。



- 上教授注意
- 一、底の両側の縫材は特に大形の縫材にて之が方法を會得せしむべし
  - 二、協明の所には適當なる隙止をなさしむべし
  - 三、底の両側に縫上たる三角形は糊の方を折りて縫付をなさしむべし
  - 四、口金を取付く際は千鳥掛を強く張るが左右に口金の動かしむる様注意せしむべし
  - 五、口金の高さは任意となさしむるも可なり
  - 六、上部には各自隨意の縫ひなさりしむるも可なり

263  
3  
145

發行所  
賣所

東京市京橋區南傳馬町一ノ一番地  
名古屋市西區伏見町一ノ四番地

小學教育研究會  
野田出張店

不許複製

大正七年三月二十日印刷  
大正七年四月一日發行  
大正七年六月二十日再版

編纂者

名古屋市西區五平藏町三ノ二番地

橫井曹



發行者

東京市京橋區南傳馬町一ノ一番地

戶田節次郎

印刷者

名古屋市東區針屋町三十一番戶

小池清

印刷所

名古屋市東區針屋町三十一番戶

三益社

教案兼用手工科教授細目

正價金八拾錢



263.3  
145

終

